

No.61 「合理的な理由があるなら 1%案で納得、早く確定して発表を」――商社での税制対応経験を持つ 37 歳

対象者プロフィール

氏名	渡辺 光男
居住地	神奈川県横浜市
年齢・性別	37 歳・男性
職業	会社員（商社）
家族構成	妻（会社員）・子 1 人（4 歳）
政治関心/知識	中／中

3 フリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「商社の仕事でも為替レートの変動や関税率が変わるたびにシステム対応が必要になるので、そういったシステム改修の大変さは理解できます」と述べた。「不確実性が続くのは企業にとっても家庭にとっても計画が立てにくいです」と語った。

推論：商社マンとして税制・システム変更のコストをリアルに理解しており、レジシステムの説明を自分の業務経験と接続して即座に納得した。「企業にとっても」という視点が個人の生活者評価と並走しており、職業上の論理が賛成の根拠になっている。

FD：渡辺にとって消費税 1%案への賛成は、商社での税制・システム対応経験から「合理的な理由があるなら納得できる」という論理的な受け入れだ。食費への切実さは薄いですが、理由の明確さが賛成の決定要因になっている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「輸入物価の上昇が国内の食品価格に波及しているという構造は理解しています。消費税が下がれば少し緩和されますが、根本的な物価の問題は別の話だとも思っています」と述べた。

推論：消費税削減の効果を「根本的な物価問題とは別」と明確に切り分けており、経済分析の習慣が個人の評価にも及んでいる。切実さは薄いですが、子どもの将来の教育費を見据えた節約意識が賛成の生活的根拠を作っている。

FD：渡辺における消費税は「生活費節約手段として合理的に評価しながら、物価問題の根本解決とは切り分けて捉える」構造だ。経済理解が深いことで感情的な賛成でなく論理的な賛成になっている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品の 1%案、合理的だと思います。早く確定して発表してください」がメッセージだと答えた。「政策は理由の説明がしっかりと受け入れやすいですね」と述べた。

推論：「合理的だと思います」という言葉が、感情的賛成ではなく論理的賛同を示している。「早く確定して発表を」という要求は、企業人として不確実性を嫌う業務経験から来ている。

FD：渡辺の高市評価は「1%案は合理的、早期確定・発表を」という論理的支持だ。政策への賛否を感情でなく合理性で評価する商社マンの習慣が、「理由があれば納得」という評価軸を作っている。

【全体総括】

根拠：「理由が明確なら 1%案で早く実現してほしい」と締めた。「合理的な理由があるなら受け入れられますし、早く確定することが家庭にとっても企業にとっても助かります」と述べた。

推論：渡辺を貫く行動原理は「商社での仕事経験から、理由の明確さと早期決定を評価軸として政策を判断する」だ。切実さより合理性が判断の軸になっており、「企業にとっても」という視点が最後まで外れない。

FD：渡辺光男を特徴づけるのは「商社での税制・システム対応経験から 1%案の理由に論理的に納得し、感情より合理性で消費税議論を評価する 37 歳共働き商社マン」だ。「合理的な理由があるなら受け入れられます」という言葉に、政策評価を感情でなく論理で行う商社マンの視点が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただけで大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

渡辺光男：商社に勤めていて、輸出入の業務を担当しています。妻も会社員で共働きです。子どもが 4 歳で保育園に通っています。最近仕事も忙しくて、妻と二人で子育てをどうやり繰りするかが毎日の課題ですね。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

渡辺光男：知っています。高市総理が食料品の消費税をゼロにするという公約を出していたのも、最近 1%案が出ているのも把握しています。

M：知っていることを教えてください。

渡辺光男：ゼロという大きな公約が出て、それが 1%案に落ち着いてきているという流れですね。消費税の仕組みは仕事上でも関係があるので、興味を持って見えています。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

渡辺光男：共働きで世帯収入はそこそこあるので、食費への影響はそれほど大きくはないですが、子どもがいると食費はそれなりにかかります。月 5～6 万円くらいでしょうか。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

渡辺光男：生活者として食費が下がれば助かるとは思いますが、正直そこまで切実ではないですね。ただ子どもの教育費や将来の出費を考えると、少しでも節約できればという気持ちはあります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

渡辺光男：方向性は良いと思います。生活者として下がれば助かります。

M：なぜそう思いますか？

渡辺光男：子どもの成長に合わせてこれから食費も増えますし、少しでも下がれば助かります。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

渡辺光男：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

渡辺光男：驚かないですね。ゼロというのは実現するのに様々な障壁があるだろうと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

渡辺光男：評価します。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

渡辺光男：知りたいです。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

渡辺光男：財政的な制約か、あるいは実務的な問題だと思っていましたが、正確には知りません。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

渡辺光男：なるほど、システムの問題ですか。商社の仕事でも為替レートの変動や関税率が変わるたびにシステム対応が必要になるので、そういったシステム改修の大変さは理解できます。全国のスーパーを一斉に変えとなれば、1 年かかるのも納得できます。1%で半年早く実現できるなら合理的な判断だと思います。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

渡辺光男：そうですね。早く実現した方が生活者として助かりますし、合理的な理由があるなら納得できます。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

渡辺光男：早く決めてほしいですね。不確実性が続くのは企業にとっても家庭にとっても計画が立てにくいです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

渡辺光男：消費税の仕組みは一通り知っています。食料品が8%で他が10%というのも、輸出企業には輸出還付がある仕組みも知っています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

渡辺光男：子どもが小さいので今後食費は増えていくと思います。消費税が1%でも下がれば年間で数千円の節約になりますし、子どもの教育費に回せます。

M：その情報はどこから？

渡辺光男：ニュースで追っています。仕事でも経済動向には敏感なので。

M：何か実感として感じているものはありますか？

渡辺光男：物価上昇は感じています。スーパーで買い物するのは主に妻ですが、同じものが高くなっているという話は聞きます。

M：それについてはどう思いますか？

渡辺光男：輸入物価の上昇が国内の食品価格に波及しているという構造は理解しています。消費税が下がれば少し緩和されますが、根本的な物価の問題は別の話だとも思っています。ただ生活者として食費が下がることは助かります。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

渡辺光男：就任前から経済政策に積極的という印象を持っていました。消費税ゼロの公約は「大きく出た」と思いましたが、実現の難しさも同時に感じていました。1%案は現実的な修正だと思います。

M：商社でお仕事をされているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

渡辺光男：貿易政策や関税の動向が気になりますが、今日は消費税の話ですよね。食料品消費税については、今日の理由を聞いて合理的だと思いました。ただ、政策の決定プロセスが不透明なまま変わっていくのは、企業としても対応が難しいです。早期の明確な決定と発表が助かります。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

渡辺光男：方向性は良いと思います。今日の理由を聞いて 1%案は合理的だと納得しました。あとは早く確定して発表してほしいです。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

渡辺光男：「食料品の 1%案、合理的だと思います。早く確定して発表してください」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

渡辺光男：理由が明確になれば納得して受け入れられます。生活者としても早く実現してほしいですし、不確実性が続くのは困ります。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

渡辺光男：します。妻は「食費が下がれば助かるね」と言っていました。共働きで家計を二人で管理しているので、食費の変化は妻の方が実感として大きいかもしれないです。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

渡辺光男：「理由が明確なら 1%案で早く実現してほしい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

渡辺光男：システムの理由を聞いて納得しました。合理的な理由があるなら受け入れられますし、早く確定することが家庭にとっても企業にとっても助かります。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

渡辺光男：今日話してみて、1%案の理由がわかって納得感が高まりました。政策は理由の説明がしっかりあると受け入れやすいですね。早く決まって告知してもらえれば、家庭としても準備できます。

M：ありがとうございました。

No.62 「子ども3人の食費がかかる今の時期に、ゼロより1%で半年早く始まる方が助かる——42歳の父」

対象者プロフィール

氏名	石原 勇
居住地	神奈川県川崎市
年齢・性別	42歳・男性
職業	警察官
家族構成	妻（専業主婦）・子3人（13歳・10歳・7歳）
政治関心/知識	中／低

3分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「13歳・10歳・7歳の子どもがいる今の食費がかかる時期に、早く始まってほしい」と述べ、「1%で半年早く始まるなら、その方がいいです」と語った。「月7,000円前後変わってきます」と計算した。

推論：子ども3人という家計規模が「食費がかかる時期」という動機の根拠になっている。「政策というのはいろいろな事情がありますし」という言葉に、システム問題の説明を前に既に納得準備ができていた余裕が示されている。

FD：石原にとって消費税1%案への賛成は、子ども3人・専業主婦家庭として食費が月10～11万円という家計の重さから来ている。ゼロへの残念感はあるが、事情があれば仕方ないという現実的な受け入れと、「早く始まってほしい」という今の時期への切実さが共存している。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「月10～11万円の食費で、1%になれば年間8～9万円くらい違う。上の子の部活費用とかに回せます」と述べた。日々の買い物は妻が担っており、物価変化の詳細は妻の方が詳しいと語った。

推論：食費と部活費用を同じ文脈で語ることで、消費税節約の使い道が子どもの活動費として具体的に示されている。家計管理の詳細を妻に委ねながら、全体的な家計規模は把握している。

FD：石原における消費税は「子ども3人の食費という大きな出費から来る、節約額が年間8～9万円に達する実感のある家計課題」として語られる。節約額の絶対値が大きいことが評価の根拠になっている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「13 歳の上の子が来年高校受験なので、これから高校・大学の費用がかかってくる。食費が少し下がるのは助かりますが、教育費の方が家計では重くなってきています」と述べた。

推論：高市総理への評価は食料品消費税の方向性への受け入れだが、受験のタイムラインが見えている教育費が「重くなってきている」という言葉で前景化している。消費税節約と教育費問題が並走して語られた。

FD：石原の高市評価は「食費が下がるのは助かる、でも来年の受験以降の教育費の方が家計の大きな課題」という子ども 3 人を抱えた父親としての正直な優先順位だ。消費税節約が「今必要な部分的な解決」として位置づけられている。

【全体総括】

根拠：「子ども 3 人の食費がかかる今の時期に、ゼロより 1%で半年早く始まる方が助かる」と締めた。「子どもが 3 人いて食費がかかる時期です」という言葉が評価の根拠を示している。

推論：石原を貫く行動原理は「子ども 3 人・専業主婦家庭として食費が月 10～11 万円という規模になっている今の時期に、ゼロより半年早い 1%を実利として支持する」だ。節約額の絶対値の大きさ（年間 8～9 万円）が、1%への評価を支えている。

FD：石原勇を特徴づけるのは「子ども 3 人・専業主婦家庭で食費が月 10～11 万円かかる 42 歳として、消費税節約を年間 8～9 万円という実感のある数字で語り、ゼロより半年早い 1%を家計の現実から支持した父親」だ。「子ども 3 人の食費がかかる今の時期」という言葉に、家族規模と今の時期が一体となった動機が出ている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

石原勇：警察官をしています。妻と子どもが 3 人、13 歳・10 歳・7 歳です。川崎市に住んでいます。妻が専業主婦で子ども 3 人ですので、食費が結構かかっています。物価が上がっているのも感じています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

石原勇：知っています。高市総理が食料品の消費税をゼロにしようと言っていたのが、最近は 1%案が出てきているという話ですね。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

石原勇：食費は月 10～11 万円くらいかかっています。子どもが 3 人で、上の子が 13 歳になってよく食べるようになってきました。物価も上がっているので、食費全体が増えています。消費税が下がれば助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

石原勇：良いと思います。子ども 3 人を抱えていると食費がかかりますので、8%から 1%になれば月 7,000 円前後変わってきます。その分を子どもの習い事代とか部活の費用に回せます。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

石原勇：覚えています。ゼロになったら良かったと思います。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

石原勇：少し残念でしたが、驚かなかったです。政策というのはいろいろな事情がありますし、何か理由があるんだろうと思っていました。

M：1%になったとしたら評価しますか？

石原勇：評価します。8%より断然いいです。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

石原勇：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

石原勇：なるほど、そういう理由なんですか。確かに全国のスーパーのレジを一斉に変えるのは大変ですね。家計として、1%で半年早く始まるならその方がいいです。13 歳・10 歳・7 歳の子どもがいる今の食費がかかる時期に、早く始まってほしいです。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

石原勇：そうですね。早い方が助かります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

石原勇：早く確定してほしいです。家計の計画が立てやすくなりますし。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

石原勇：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。あまり詳しい仕組みはわかりませんが。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

石原勇：月 10～11 万円くらいかかっています。1%になれば年間で 8～9 万円くらい違いますよね。子ども 3 人がいて食費がかかる今の時期に、それだけ浮けば助かります。上の子の部活費用とかに回せます。

M：その情報はどこから？

石原勇：ニュースで見ました。妻からも「食費が下がれば助かる」という話が出ています。妻が日々の買い物をしているので、物価変化の詳細は妻の方が詳しいです。

M：何か実感として感じているものはありますか？

石原勇：物価が上がっているのは実感しています。子どもが 3 人いて食費がかかる家庭なので、スーパーで同じものが高くなっているのは妻からよく聞きます。

M：それについてはどう思いますか？

石原勇：消費税が少しでも下がれば助かります。子ども 3 人の食費が今の家計の大きな出費なので。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

石原勇：就任前から積極的な感じがしていました。食料品消費税の話は家計として良い方向だと思っています。

M：13 歳・10 歳・7 歳の 3 人のお子さんを育てる父親という立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

石原勇：子どもの教育費がどうなるかは気になります。13 歳の上の子が来年高校受験なので、これから高校・大学の費用がかかってきます。食費が少し下がるのは助かりますが、教育費の方が家計では重くなってきています。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

石原勇：方向性は良いと思います。今日の話でシステムの問題だとわかって、1%案の理由が理解できました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

石原勇：「子ども 3 人分の食費がかかっているので、1%でも早く食費が下がれば助かります。教育費の支援も合わせてお願いしたいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

石原勇：子どもが3人いて食費も教育費もかかる時期に入ってきています。食費が少し下がれば、その分を子どもたちのために使えます。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

石原勇：します。妻も「食費が下がれば助かる」と言っています。家計については二人で相談しています。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

石原勇：「子ども3人の食費がかかる今の時期に、ゼロより1%で半年早く始まる方が助かる」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

石原勇：子どもが3人いて食費がかかる時期です。システムの問題で半年早く始まるなら、1%の方が今の家計には良いです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

石原勇：今日の話でシステムの問題だとわかって良かったです。早く確定してほしいです。

M：ありがとうございました。

No.63 「どうせ変わらないと思っていたが、1%案には理由があるなら信頼してみようか」――政治不信を抱える 48 歳自動車整備士

対象者プロフィール

氏名	鈴木 敏彦
居住地	神奈川県相模原市
年齢・性別	48 歳・男性
職業	自動車整備士（工場長）
家族構成	妻（パート）・子 2 人（19 歳・17 歳）
政治関心/知識	低/低

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「選挙のたびに色々言うけど、どうせ変わらないという気持ちもあって、あまり詳しくは追っていないです」と述べた。レジシステムの説明に「整備の仕事でもシステムを新しくするときは大変ですよ。診断機器とか管理ソフトを入れ替えると、操作を覚え直さないといけないし」と応じた。

推論：政治への不信・諦め観が出発点にあるが、整備工場でのシステム入れ替え経験がレジシステムの説明への即座の共感を生んだ。理由が明確になることで「どうせ変わらない」という壁が少し崩れている。

FD：鈴木にとって消費税 1%案への賛成は、政治不信の中でも整備工場でのシステム経験から「理由があるなら信頼してみよう」という条件付きの賛成だ。諦め観があるからこそ、具体的な理由の提示が大きな意味を持った。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「消費税が 1%下がれば少し助かりますが、根本的な物価の問題は別のことで、消費税だけの話じゃない気がします」と述べた。「妻が月 5～6 万円くらいでやりくりしています」と語った。

推論：消費税削減の効果を「根本的な物価問題とは別」と見抜いており、政治への不信感が批判的な視点を生んでいる。情報は主に妻経由で、自分では深く追わないスタンスが一貫している。

FD：鈴木における消費税は「妻が実感する家計問題として間接的に把握しながら、政治不信から批判的に評価する」構造だ。直接の切実さは薄いのが、妻の生活実感が賛成の感情的根拠になっている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「言ったことはちゃんとやってください。食料品の 1%は早く実現してほしいです」がメッセージだと答えた。「政治家は言うだけ言ってやらないということが多いので」と述べた。

推論：「言ったことをやる」という要求が評価の核心だ。「どうせ変わらない」という不信が「ちゃんとやれ」という要求に変換されている。今日の理由の説明が「信頼してみようか」という気持ちの変化を生んだ。

FD：鈴木の高市評価は「言ったことをちゃんとやってほしい」という政治不信からの条件付き評価だ。今日の説明で信頼が少し回復したが、「言うだけ言って」という不信感は根強く残っている。

【全体総括】

根拠：「今回は理由がしっかりしているなら信頼してみようかという気持ちになりました」と締めた。「政治家の話はどうせという気持ちで見えていましたが」と述べた。

推論：鈴木を貫く行動原理は「政治への不信と諦め観を持ちながら、具体的な理由の説明によって壁が少し崩れる」だ。整備工場でのシステム経験がその壁を崩すきっかけになった。

FD：鈴木敏彦を特徴づけるのは「政治はどうせ変わらないという諦め観を持ちながら、整備工場でのシステム経験からレジシステムの理由に納得し、1%案を条件付きで信頼してみようとする 48 歳自動車整備士」だ。「今回は理由がしっかりしているなら信頼してみようか」という言葉に、長年の政治不信が具体的な説明で少し溶けた瞬間が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

鈴木敏彦：自動車整備工場の工場長をやっています。毎日車の整備で忙しくて、ニュースを見る時間もあまりないですね。子どもが二人いますが、もう 19 歳と 17 歳で大きくなりました。妻がパートをしていて、二人の稼ぎでやっています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

鈴木敏彦：ぼんやりとは聞いた気がします。食べ物の税金が下がるとか下がらないとかいう話ですね。

M：知っていることを教えてください。

鈴木敏彦：高市さんがゼロにすると書いていたのが、最近は 1%案になっているという話ですか。選挙のたびに色々言うけど、どうせ変わらないという気持ちもあって、あまり詳しくは追っていないです。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

鈴木敏彦：子どもが大きくなって、以前よりはかかりませんね。とはいっても、物価が上がっているので妻は毎月頭を悩ませています。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

鈴木敏彦：本当に下がるならありがたいですね。でも本当に下がるのかなという疑問もあります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

鈴木敏彦：下がるならそれはいいことだと思いますよ。1%でも。

M：なぜそう思いますか？

鈴木敏彦：少しでも安くなれば助かります。妻も喜ぶと思います。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

鈴木敏彦：そういえばゼロって言ってた気がします。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

鈴木敏彦：驚かないですね。ゼロにはならないだろうなと最初から思っていました。政治家の言うことはそんなに鵜呑みにしないようにしているので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

鈴木敏彦：まあ、下がるなら評価しますよ。何もしないよりはいい。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

鈴木敏彦：知りたいと言えば知りたいですね。理由があるなら聞きたいです。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

鈴木敏彦：知らないです。財政の問題かとは思っていましたが。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

鈴木敏彦：レジのシステムを変えるのに時間がかかるんですか。整備の仕事でもシステムを新しくするときは大変ですよ。診断機器とか管理ソフトを入れ替えると、操作を覚え直さないといけないし、時間もかかります。全国のスーパーとなると確かに大変ですね。1%で半年早くなるなら、その方がいいですね。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

鈴木敏彦：そうですね。どうせ変わるなら早い方がいい。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

鈴木敏彦：早く決めてほしいですね。ぐずぐずされても困ります。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

鈴木敏彦：食料品が 8%で他は 10%というのは知っています。整備工場では車の部品や工賃に 10%の消費税がかかりますね。詳しい仕組みはあまり知らないですけど、毎月の税金の計算は会計ソフトでやっています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

鈴木敏彦：子どもが大きくなって食費は落ち着きましたが、物価が上がっているから同じくらいはかかります。妻が月 5〜6 万円くらいでやりくりしています。消費税が下がれば助かります。

M：その情報はどこから？

鈴木敏彦：妻から聞くことが多いですね。私はニュースをゆっくり見る時間もあまりないので。

M：何か実感として感じているものはありますか？

鈴木敏彦：部品の値段が上がっているのは仕事で実感しています。車の部品も輸入物が多いので、円安の影響で高くなっています。スーパーの値段も妻が「上がった」と言っていました。

M：それについてはどう思いますか？

鈴木敏彦：どうしようもないですよ。消費税が 1%下がれば少し助かりますが、根本的な物価の問題は別のことで、消費税だけの話じゃない気がします。でも下がれば助かることには変わりないです。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

鈴木敏彦：正直言うと、誰がなっても変わらないという気持ちがあります。高市さんも就任前は色々言っていましたが、どこまで実行できるか様子を見ています。消費税ゼロの公約は「そんなうまい話があるか」と思っていました。

M：自動車整備のお仕事をされているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

鈴木敏彦：中小企業の人件費とか、職人の賃金上がるかどうか気になります。消費税の話も大事ですが、整備士の賃金が上がらないと人が集まらなくて困ります。業界的には人手不足が深刻で。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

鈴木敏彦：方向性は良いと思います。今日の話聞いて、1%案の理由もわかりました。言ったことをちゃんとやってくれば評価します。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

鈴木敏彦：「言ったことはちゃんとやってください。食料品の1%は早く実現してほしいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

鈴木敏彦：政治家は言うだけ言ってやらないということが多いので、今回はちゃんとやってほしいです。理由もわかりましたし、早く実現してくれば助かります。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

鈴木敏彦：たまにします。妻は「食費が下がれば助かる」と言っていました。私は「本当にそうなるの？」と言いましたが、今日聞いた話だとちゃんと理由もあるんですね。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

鈴木敏彦：「理由がわかった、言ったことをちゃんとやってほしい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

鈴木敏彦：レジのシステムの理由を聞いて、なるほどと思いました。ちゃんとした理由があるなら信頼できます。1%で早く実現してくれば、妻も喜びますし、家計も少し楽になります。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

鈴木敏彦：今日話してみて、消費税の話はちゃんと理由がある話だとわかりました。政治家の話はどうせという気持ちで見えていましたが、今回は理由がしっかりしているなら信頼してみようかという気持ちになりました。

M：ありがとうございました。

No.64 「コストと便益を考えれば 1%案は合理的、早く確定して不確実性を解消してほしい」――経済動向を日々分析する 35 歳証券マン

対象者プロフィール

氏名	田村 和彦
居住地	神奈川県藤沢市
年齢・性別	35 歳・男性
職業	会社員（金融・証券）
家族構成	妻（会社員）・子なし
政治関心/知識	高／高

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「インフラのシステム改修ですね。全国規模の POS システム改修となると確かに時間とコストがかかります。1%で半年早く実現できるというのは、コストと便益のトレードオフとして合理的な判断だと思います」と述べた。

推論：「コストと便益のトレードオフ」という言葉が職業的な分析習慣の表れだ。家計への影響より経済政策としての評価が先に来ると自分で述べており、生活者としての切実さより合理性が評価軸になっている。

FD：田村にとって消費税 1%案への賛成は、金融の仕事で培ったコスト・ベネフィット分析の習慣から来る「合理的な判断への評価」だ。家計への影響は限定的だが、政策としての合理性が賛成の根拠になっている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「消費税削減は消費刺激効果として一定の意味はあります。ただ食費への直接的な影響は限定的で、本当に苦しい層への支援としては他の手段も並行して考える必要があると思います」と述べた。

推論：消費税削減の生活者への影響を「月 300～400 円」と即座に計算しており、感情より数字で評価する金融マンの習慣が出ている。「本当に苦しい層への支援」という他者視点も持っており、個人の利益より政策全体の効果を評価する視点がある。

FD：田村における消費税は「家計への影響は軽微だが、政策効果として一定の意味を持つ」という第三者的な評価だ。自分への影響より政策設計の合理性で判断する金融マンの視点が支配的だ。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「1%案は合理的な判断だと思います。早く確定して発表してください。不確実性を早く解消してください」がメッセージだと答えた。

推論：「不確実性の解消」という金融用語が、評価の核心を示している。政策の方向性への支持と不確実性への嫌悪が並立しており、早期確定要求は生活者としてだけでなく市場参加者としての論理から来ている。

FD：田村の高市評価は「合理的な 1%案、不確実性を早く解消してほしい」という金融マンとしての要求だ。政策の賛否より、確実性と予測可能性を重視する金融業界の論理が評価を形作っている。

【全体総括】

根拠：「コストと便益を考えた合理的な 1%案、早く確定を」と締めた。「消費税の議論はどうしても財政問題や政治的な話になりがちですが、実装コストという観点での説明は納得感が高いです」と述べた。

推論：田村を貫く行動原理は「金融のプロとして政策をコスト・ベネフィットで評価し、合理的な根拠があれば支持する」だ。感情的な賛成ではなく論理的な評価が一貫しており、「早期確定」は生活者より市場参加者としての要求が強い。

FD：田村和彦を特徴づけるのは「金融のプロとしてコスト・ベネフィット分析で 1%案を合理的と評価し、家計より政策の不確実性解消を重視する 35 歳証券会社員」だ。「実装コストという観点での説明は納得感が高い」という言葉に、感情より合理性で政策を評価する金融マンの視点が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

田村和彦：証券会社に勤めています。経済や市場の動向を毎日分析するのが仕事です。妻も会社員で共働きです。子どもはいません。藤沢に住んで通勤しています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

田村和彦：もちろんです。高市総理の食料品消費税ゼロの公約も、最近の 1%案も把握しています。市場への影響という観点でも追っていました。

M：知っていることを教えてください。

田村和彦：ゼロという大きな公約が出て、現実的な 1%案に落ち着いてきているという流れですね。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

田村和彦：共働きで子どもがいないので、食費はそれほどかかっていません。月 3～4 万円程度です。消費税の変化が家計に与える影響は限定的です。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

田村和彦：生活者として下がることは悪くないとは思いますが、正直言うと家計への影響より経済政策としての評価の方が気になります。ただ今日は家庭の食費の話ですよね。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、生活者としてどう思いますか？

田村和彦：生活者としては、方向性は良いと思います。

M：なぜそう思いますか？

田村和彦：少しでも食費の負担が軽くなれば助かりますし、物価対策としての意味はあると思います。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

田村和彦：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

田村和彦：驚かないですね。ゼロという数字は実現するのに多くの障壁があることは最初から予想していました。

M：1%になったとしたら評価しますか？

田村和彦：評価します。方向性は正しいと思います。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

田村和彦：知りたいです。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

田村和彦：財政的な制約もあるでしょうし、実務的な問題もあるかと思いましたが、正確な理由は知らないです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

田村和彦：インフラのシステム改修ですね。全国規模の POS システム改修となると確かに時間とコストがかかります。1%で半年早く実現できるというのは、コストと便益のトレードオフとして合理的な判断だと思います。インフラのシステム改修に要する工数は馬鹿にならないですから。生活者として早く始まる方が助かります。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

田村和彦：そうですね。合理的な判断だと思います。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

田村和彦：早く決定してほしいですね。政策の不確実性が続くと、消費者も企業も計画を立てにくいです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

田村和彦：消費税の仕組みは詳しく知っています。軽減税率の区分から、インボイス制度、さらには国の財政における消費税の役割まで。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

田村和彦：妻と二人で食費は月 3～4 万円程度です。消費税が 1%下がっても月 300～400 円程度の変化なので、生活への直接的な影響は小さいです。ただ方向性としては歓迎します。

M：その情報はどこから？

田村和彦：日常的にニュースや経済レポートを追っています。仕事でも政策の市場への影響を分析するので。

M：何か実感として感じているものはありますか？

田村和彦：物価上昇はデータとして把握しています。日常の買い物で実感するというより、CPI（消費者物価指数）の動向として追っています。

M：それについてはどう思いますか？

田村和彦：消費税削減は消費刺激効果として一定の意味はあります。ただ食費への直接的な影響は限定的で、本当に苦しい層への支援としては他の手段も並行して考える必要があると思います。生活者として食費が下がることは助かりますが。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

田村和彦：就任前から経済政策に積極的という印象がありました。消費税ゼロの公約は市場へのインパクトという点では注目していました。1%案は現実的な修正だと思います。

M：金融・証券のお仕事をされているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

田村和彦：経済政策全体の整合性が気になります。消費税を下げることに財政の持続性のバランス、それから金融政策との整合性も。消費税の話については今日の理由を聞いて合理的な判断だと思いました。早期に確定して市場の不確実性を下げてほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

田村和彦：方向性は評価します。今日の理由を聞いて、1%案はコストと便益を考えた合理的な選択だとわかりました。早く確定してほしいです。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

田村和彦：「1%案は合理的な判断だと思います。早く確定して発表してください。不確実性を早く解消してください」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

田村和彦：政策の不確実性は市場にも家計にも悪影響です。合理的な根拠があるなら早く確定して進めてほしいです。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

田村和彦：します。妻は「食費が下がれば助かるね」と言っていました。私はどちらかというところ経済政策としての評価が先に来ますが、妻は家計への影響で見えています。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

田村和彦：「コストと便益を考えた合理的な1%案、早く確定を」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

田村和彦：システム改修のコストと半年の短縮という便益を考えると、1%案は合理的な選択です。生活者としても早く始まれば助かりますし、不確実性の解消という意味でも早期確定が重要です。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

田村和彦：今日話してみて、レジシステムの話は合理的な理由だと思いました。消費税の議論はどうしても財政問題や政治的な話になりがちですが、実装コストという観点での説明は納得感が高いです。早く確定して進めてほしいと思います。

M：ありがとうございました。

No.65 「財源の問題でないとわかって安心した、1%案で早く始めてほしい」——教育予算への影響を案じる 46 歳中学教員

対象者プロフィール

氏名	菊池 昭夫
居住地	神奈川県横浜市
年齢・性別	46 歳・男性
職業	中学校教員（理科）（公立）
家族構成	妻（小学校教員）・子 2 人（14 歳・11 歳）
政治関心/知識	高／中

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「学校でも GIGA スクール構想でタブレットを一斉導入した時に、システムの対応がどれだけ大変だったかを経験しているので、全国のスーパーのレジを変えとなれば確かに時間がかかると思います」と述べた。「財源の問題でなくシステムの問題なら、教育予算への影響という心配は和らぎます」と応じた。

推論：GIGA スクールでのシステム導入経験がレジシステムの説明への即座の共感を生んでいる。消費税 1%案への最大の懸念が教育予算への影響であり、「財源の問題でない」という確認が賛成の障壁を除去した。

FD：菊池にとって消費税 1%案への賛成は、GIGA スクール経験からシステム理由に共感しながら、「教育財源への影響でない」という確認が前提になった条件付き賛成だ。財源確認が賛成の決定要因になっている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「教育予算がちゃんと確保されることの方が、教員としては大事だと思っています」と述べた。「今日の話でシステムの問題とわかって少し安心しました。生活者として食費が下がることは助かります」と語った。

推論：教員として教育予算への関心が消費税評価の軸になっており、食費節約の優先度がその後に来る。消費税削減を財源問題として先に評価する構造は、専門的な立場を持つパネルに共通している。

FD：菊池における消費税は「家庭では節約の問題、教育現場では財源問題」という二重の意味を持つ。教員夫婦として財源と教育の関係を日常的に考えているからこそ、消費税削減を財源問題として先に評価する。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品の 1%案は良い方向だと思います。財源の手当てをしっかりと、教育予算も削らないでください」がメッセージだと答えた。

推論：消費税 1%案への賛成と教育予算確保の要求が並立している。専門職の視点から財源への条件付き賛成が続いており、賛成の条件が「財源への影響なし」であることが明確だ。

FD：菊池の高市評価は「1%案の方向性は良いが、教育予算の財源確保を同時に」という条件付き支持だ。教員として教育予算と財源の関係を日常的に経験しているからこそ、消費税削減を財源問題として評価する視点がある。

【全体総括】

根拠：「財源の問題でないとわかって安心した、1%案で早く始めてほしい」と締めた。「GIGA スクール対応を経験したので、システム改修の大変さはよくわかります」と述べた。

推論：菊池を貫く行動原理は「消費税削減の教育財源への影響を先に確認してから、生活者として賛成する」だ。GIGA スクール経験がシステム理解の根拠になり、財源確認が賛成の前提条件として機能している。

FD：菊池昭夫を特徴づけるのは「GIGA スクール導入でシステム改修の大変さを知り、教育財源への影響を最大の懸念として持ちながら、財源問題でないとわかって安心し 1%案に賛成する 46 歳中学教員」だ。「財源の問題でないとわかって安心した」という言葉に、教員としての財源への緊張感が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

菊池昭夫：中学校で理科を教えています。妻も小学校の教員で共働きです。子どもが 14 歳と 11 歳で、ちょうど教育費がかかる時期に差し掛かっています。教員夫婦なので教育への関心は高いですが、家計のやりくりも考えています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

菊池昭夫：知っています。高市総理が食料品の消費税をゼロにするという公約を出していたのも、最近 1%案が出ているのも把握しています。

M：知っていることを教えてください。

菊池昭夫：ゼロという大きな公約が出て、それが 1%案になってきているという流れですね。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

菊池昭夫：教員夫婦で共働きなので家計は安定していますが、子どもが二人いて食費は月 7～8 万円くらいかかっています。消費税が下がれば助かりますね。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

菊池昭夫：生活者として食費が下がれば助かると思いますが、消費税の財源が教育予算に影響しないかも知になります。

M：今日は家庭の食費という観点でお聞きしています。食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、生活者としてどう思いますか？

菊池昭夫：生活者来说、方向性は良いと思います。食費が少しでも下がれば助かります。

M：なぜそう思いますか？

菊池昭夫：子どもが二人いてこれから受験や進学でお金がかかりますし、食費が少しでも浮けば教育費に回せます。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

菊池昭夫：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

菊池昭夫：「まあそうなるか」という感じです。ゼロは財政的に難しいだろうと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

菊池昭夫：方向性は評価します。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

菊池昭夫：知りたいです。財源の問題なのか、別の理由なのかで受け止め方が変わりますので。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

菊池昭夫：知らないです。財政的な制約かと思っていましたが。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

菊池昭夫：システムの問題なんですね。学校でも GIGA スクール構想でタブレットを一斉導入した時に、システムの対応がどれだけ大変だったかを経験しているので、全国のスーパーのレジを変えとなれば確かに時間がかかると思います。財源の問題でなくシステムの問題なら、教育予算への影響という心配は和らぎます。1%で半年早く実現できるなら、生活者として早い方が助かります。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

菊池昭夫：そうです。財源の問題でないわかりましたし、早い方が良いです。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

菊池昭夫：早く決めてほしいですね。子どもたちの進学費用が増える前に、少しでも家計が楽になれば。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

菊池昭夫：食料品が8%で他が10%というのは知っています。消費税が社会保障の財源になっているというのも把握しています。教員として、教育予算と税収の関係も気になっています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

菊池昭夫：子どもが二人いて食費は月7～8万円です。消費税が1%でも下がれば年間で数千円の節約になります。子どもの習い事や受験費用に回せます。

M：その情報はどこから？

菊池昭夫：自分で計算しています。あとニュースや教員仲間の話からも。

M：何か実感として感じているものはありますか？

菊池昭夫：物価上昇は感じています。食材が高くなっているのも、学校の教材費が上がっているのも実感します。

M：それについてはどう思いますか？

菊池昭夫：消費税が下がれば少し助かります。ただ、教育予算がちゃんと確保されることの方が、教員としては大事だと思っています。消費税の財源が下がって教育への予算が減ると困りますが、今日の話でシステムの問題とわかって少し安心しました。生活者として食費が下がることは助かります。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

菊池昭夫：就任前は経済に積極的という印象でした。消費税ゼロの公約は「大きく出た」と思いましたが、財源への影響が心配でした。1%案になったのは現実的な修正だと思いますし、今日の理由を聞いて財源でなくシステムの問題とわかって安心しました。

M：中学教員というお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

菊池昭夫：教育予算の確保が一番気になります。消費税が下がることは生活者として歓迎しますが、その分の財源をどう手当てするかが大事です。学校現場では少人数学級や設備の充実など、まだまだお金が必要なことがたくさんあります。消費税 1%案が財源の問題でないとわかった今は、教育予算が別途しっかり確保されることを期待しています。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

菊池昭夫：方向性は良いと思います。今日のシステムの話聞いて、財源の問題でないとわかって安心しました。教育予算への影響が心配でしたが、別の問題とわかったので。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

菊池昭夫：「食料品の 1%案は良い方向だと思います。財源の手当てをしっかりと、教育予算も削らないでください」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

菊池昭夫：生活者として食費が下がれば助かりますし、教員として教育予算が確保されることが大事なので。今日の話でシステムの問題とわかって安心しましたが、財源の手当てでもちゃんとしてほしいです。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

菊池昭夫：します。妻も教員なので教育予算への関心が高く、「食費が下がるのは助かるけど、教育への影響が心配」と言っていました。今日の話聞いて、財源の問題でないとわかったことは伝えようと思います。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

菊池昭夫：「財源の問題でないとわかって安心した、1%案で早く始めてほしい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

菊池昭夫：レジシステムの理由を聞いて、財源への影響でないとわかりました。学校での GIGA スクール対応を経験したので、システム改修の大変さはよくわかります。財源の問題でないなら、生活者として早く食費が下がってほしいです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

菊池昭夫：今日の話で 1%案の理由がわかりました。学校現場でのシステム導入の大変さを知っているので、レジの話はリアルに想像できます。財源の問題でないとわかってよかったです。教育予算の確保も合わせて進めてほしいと思います。

M：ありがとうございました。

No.66 「1%でもいいから早く始めてほしい、生活がギリギリなので」――バイト掛け持ちで毎月の食費を計算する 31 歳

対象者プロフィール

氏名	小山 誠一
居住地	神奈川県川崎市
年齢・性別	31 歳・男性
職業	アルバイト（複数掛け持ち）
家族構成	妻（パート）・子なし
政治関心/知識	低/低

3 ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「月 3 万円の食費なら年間で 3000 円くらい変わる計算ですよ。3000 円って、うちにとっては結構大きいです」と述べた。レジシステムの説明に「コンビニのバイトをしているので、レジのシステムが変わると覚えることが多くて大変というのはわかります」と応じた。

推論：年間 3000 円という金額を即座に計算して「結構大きい」と言える家計の切実さがある。コンビニバイトでのレジ経験が全国のスーパーシステム改修への即座の共感を生んでいる。「政治家の言うことはあまり信じられない」という不信と「早く助かりたい」という切実さが並走している。

FD：小山にとって消費税 1%案への賛成は、毎月の食費を 3 万円以内に抑える生活の切実さから来ている。コンビニバイトでのレジ経験がシステム理由への共感を生み、「生活がギリギリなので半年でも早い方がいい」という即座の賛成につながった。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「バイトの時給は少し上がりましたが、物価の上がりの方が速くて追いつかない感じがします。消費税が 1%でも下がれば、少し息ができます」と述べた。

推論：「少し息ができます」という表現が、現状の息苦しさを示している。時給上昇が物価上昇に追いつかないという構造を体感として把握しており、消費税削減を「息ができる」ための手段として捉えている。

FD：小山における消費税は「息苦しい生活の中で少し息ができるようになる手段」だ。コンビニバイトで軽減税率を実務として経験しており、消費税の仕組みへの理解はバイト現場から来ている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品の 1%、早く始めてください。バイト掛け持ちで生きている人間のことも忘れないでください」がメッセージだと答えた。

推論：「バイト掛け持ちで生きている人間のことも忘れないで」という言葉が、非正規雇用者としての不可視化への訴えを示している。消費税への要求と非正規雇用者としての存在証明が並立している。

FD：小山の高市評価は「1%は早く始めて、非正規の人間のことも忘れないで」という二重の訴えだ。消費税への賛成は生活の切実さから来ており、非正規雇用への言及は政治から見えていないという感覚から来ている。

【全体総括】

根拠：「1%でもいいから早く始めてほしい、生活がギリギリなので」と締めた。「政治家の話って信用できないと思っていましたが、今日みたいに理由を説明してもらえると少し信頼できる気がします」と述べた。

推論：小山を貫く行動原理は「政治不信の中で毎月の食費をギリギリで計算しながら、具体的な理由の説明で少し信頼が回復する」だ。No.63 鈴木と同じ「理由があるなら信頼」の構造だが、小山の方が生活の切実さが格段に高い。

FD：小山誠一を特徴づけるのは「アルバイト掛け持ちで月 3 万円の食費をギリギリで計算しながら、コンビニバイトでのレジ経験からシステム理由に納得し、非正規雇用者として政治に見えていないことへの訴えを持つ 31 歳フリーター」だ。「少し息ができます」という言葉に、日常の息苦しさで消費税 1%案への切実な期待が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

小山誠一：アルバイトを掛け持ちしています。コンビニと居酒屋と、あと最近は倉庫の仕分けも週 2 回入っています。妻もパートをされていて、二人合わせてなんとかやっています。子どもはいないです。家賃と光熱費を払ったら手元に残るのはあまりないですね。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

小山誠一：聞いたことはあります。食べ物の税金が安くなるかもしれないという話ですよ。

M：知っていることを教えてください。

小山誠一：高市さんがゼロにするって言ったのが、今は 1%案になっているということですかね。正直、どうせ変わらないと思って深くは追っていないです。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

小山誠一：妻と二人ですが、外食はほとんどしないで自炊しています。節約のためにスーパーで安いものを選んで買っています。月 3 万円以内に抑えるようにしています。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

小山誠一：本当に下がるなら嬉しいです。毎日の買い物で少しでも安くなれば助かります。でも本当になるのかなという気持ちもあります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

小山誠一：1%でも下がれば助かります。ゼロになるって話があったのに 1%というのはちょっと残念ですが。

M：なぜそう思いますか？

小山誠一：毎月の食費は本当にギリギリで計算しているので、1%でも違います。月 3 万円の食費なら年間で 3000 円くらい変わる計算ですよ。3000 円って、うちにとっては結構大きいんです。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

小山誠一：覚えています。ゼロって聞いた時は「本当に？」と思って嬉しかったです。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

小山誠一：正直、やっぱりそうなるかと思いました。政治家の言うことってあまり信じられないので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

小山誠一：何もしないよりは良いと思います。評価はします。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

小山誠一：知りたいです。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

小山誠一：知らないです。お金がないから、財政の問題かなと思っていましたが。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

小山誠一：レジのシステムの話なんですね。コンビニのバイトをしているので、レジのシステムが変わると覚えることが多くて大変というのはわかります。全国のスーパーとなると確かに大変

ですね。1%で半年早く始まるなら、その方が早く助かります。生活がギリギリなので、半年でも早い方がいいです。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

小山誠一：はい、早く始まってほしいです。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

小山誠一：早く決めてほしいです。ぐずぐずされると信用できなくなります。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

小山誠一：食料品が8%で他が10%というのは知っています。コンビニのバイトをしているので、食品と非食品で税率が違うのはレジを打っていて実感します。消費税って上がっていただけだと思っていたので、下がる話が出てくるとは思っていませんでした。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

小山誠一：月3万円以内でやりくりしています。妻と二人でスーパーのタイムセールを使ったり、安い食材を使って料理したりしています。消費税が1%下がれば年間で3000円くらい節約できるので、助かります。

M：その情報はどこから？

小山誠一：自分で計算しました。毎月の食費を把握しているので。SNSでもこの話は流れていました。

M：何か実感として感じているものはありますか？

小山誠一：物価が上がっているのはすごく感じます。同じお金で買えるものが減っています。コンビニで売っているものの値段も上がっているし、スーパーも値上がりしています。

M：それについてはどう思いますか？

小山誠一：しんどいです。バイトの時給は少し上がりましたが、物価の上がり方の方が速くて追いつかない感じがします。消費税が1%でも下がれば、少し息ができます。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

小山誠一：正直、誰がなっても自分たちみたいな立場の人間のことはあまり考えてくれないという気持ちがあります。消費税ゼロの公約は「本当に？」と思いましたし、1%案になったのは「やっぱりな」という感じです。

M：アルバイトをされているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

小山誠一：非正規の人間の賃金とか雇用の安定がどうなるかが気になります。消費税の話も大事ですが、私みたいにバイト掛け持ちで生きている人間の生活をもっと考えてほしいです。消費税が1%下がっても、根本的な生活の苦しさは変わらないかもしれないですが、少しでも楽になるなら助かります。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

小山誠一：方向性は良いと思います。今日話を聞いて、1%案の理由はわかりました。でもゼロにしてくれると言ったのに1%になったことは、ちょっと残念です。早く始めてほしいです。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

小山誠一：「食料品の1%、早く始めてください。バイト掛け持ちで生きている人間のことも忘れないでください」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

小山誠一：毎月ギリギリで生活しているので、少しでも早く食費が下がれば助かります。非正規の人間はずっと後回しにされている気がするので、忘れないでほしいです。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

小山誠一：します。妻も「食費が下がれば助かる」と言っていました。うちは本当にギリギリなので、少しの変化でも大きいです。「本当に下がるの？」とは言っていました。

M：今日話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

小山誠一：「1%でもいいから早く始めてほしい、生活がギリギリなので」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

小山誠一：コンビニのバイトをしているのでレジの話はわかりました。1%で半年早く始まるなら早い方が絶対いいです。うちは毎月の食費を本当にギリギリで計算しているので、少しでも早く助かりたいです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

小山誠一：政治家の話って信用できないと思っていましたが、今日みたいに理由を説明してもらえると少し信頼できる気がします。ゼロって言っていたのに1%になったのは残念ですが、理由があるなら仕方ないと思います。早く始まってほしいです。

M：ありがとうございました。

No.67 妻が助かると言っていたので——消防士の44歳が、ゼロか1%かをまず妻に伝えたいと思った理由

対象者プロフィール

氏名	金子 博
居住地	神奈川県相模原市
年齢・性別	44 歳・男性
職業	消防士
世帯年収	約 650 万
家族構成	妻（パート）・子 2 人（13 歳・10 歳）
政治関心/知識	中／低

3 分ブリーフィング

【1. 導入】

根拠：「妻が助かると言っていたので、それならいいなと思った」という反応が最初に出た。自分の意見より「妻が喜んでいたら」という基準で物事を評価している。

推論：金子にとって消費税の議論は「妻と家族の生活」を通じてフィルタリングされた話題だ。直接の利害関係者として自分を位置づけず、家族——特に妻——の反応を自分の評価基準として使う。公務員として「政治的発言を控える」という職業的習慣が、意見の個人化をさらに抑制している。

FD：消費税ゼロか1%かという争点を「妻が助かるかどうか」という家族軸で評価する。政策の中身より「家族への影響」が判断基準の最上位にあり、意見の形成が「自分→外部情報」ではなく「妻→自分」という経路を通じている。

【2. Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「1%でも下がるなら、ないよりはいい」と述べた。「文句を言う立場でもない」「決めるのは偉い人たち」という言葉が複数回出た。レジシステムの理由を聞いて「消防の仕事の機材導入と似ている」と職業経験で納得した。

推論：1%案への評価は「積極的な支持」ではなく「受け入れ」だ。ゼロより1%の方が早いという理由への納得は、自分の職業経験（機材導入の準備時間）を介して行われた——これは他パネルにない経路だ。「偉い人が決めること」という政治への距離感は、公務員としての職業倫理と結びついている可能性がある。

FD：消費税議論への賛否を自分で構築せず、「家族が助かるかどうか」と「合理的な理由があるかどうか」の2軸で判断する。強い賛否はなく、理由があれば受け入れるという柔軟な受容態度が一貫している。

【3. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「消費税と物価値上がりの区別は妻から聞いた」「消費税が減ると公共サービスが削られるかもという不安がある。仕事の感覚から」と語った。

推論：消費税知識の取得経路は妻であり、自分で情報を取りに行く動線が薄い。ただし「税込減→公共サービス削減」という不安は職業経験から来ており、消防士という立場が「社会インフラの財源」という視点を生んでいる。これは生活者の視点とは異なる、職業由来の関心だ。

FD：消費税の知識は薄い、「公共サービスへの影響」という独自の関心軸を持っている。妻経由の生活者視点と、消防士としての公共サービス視点が並存しており、どちらも「自分ごと」として語られている点の特徴だ。

【4. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「公務員なのであまり政治的なことは言いにくい」と前置きした上で、「消費税ゼロと言っていたのが印象に残っている」と述べた。メッセージは「家族を守れる社会を作ってください」。

推論：高市への評価は能力・政策論ではなく「家族を守る政治かどうか」という軸で行われた。公務員という立場が評価表明を抑制しているが、「家族が助かるかどうか」という基準は一貫して出ている。消費税変更への評価も「事情があるなら理解できる」という受容的な態度で、強い批判はない。

FD：政治的発言への慎重さと「家族への影響」という評価軸が組み合わさり、政策の賛否より「生活に届くかどうか」という実用的な判断に集約される。高市への印象は「ゼロと言っていた人」という記憶が最も鮮明で、それ以外の評価軸は薄い。

【全体総括】

根拠：締めの一言は「家族のためなら助かる」。「難しい話はわからないし、政治のことは偉い人が決めることだとも思っている。でも、妻や子どもの生活を楽しむかどうか——そこだけ見ている」と語った。

推論：金子の意見形成は「自分→情報→意見」という直線的な経路ではなく、「妻→家族→自分」という間接的な経路を通じている。公務員としての政治的中立の習慣と、家族の生活への関心が融合した結果、強い賛否は持たないが家族軸の判断は明確というパターンが生まれた。

FD：消費税 0%か 1%かという争点を「妻が助かるかどうか」に翻訳するパネルだ。政策論としての深みは薄い、「家族単位で政治を受け取る」という生活者の典型的な構造を示している。「妻に早く教えてあげたい」という締めの言葉が、このパネルの政治との関わり方を最も端的に示している。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：金子さん、今日はよろしくお願いします。今日は正解のない話なので、思ったことをそのままお話してください。最近、食料品の消費税についての議論が出ていますが、ご存知でしたか？

金子博：はい、知ってます。確か、ゼロにするって話でしたよね。妻からも「食料品の税金が下がるかもしれない」って聞きました。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

金子博：妻が「助かる」って言ってたので、それならいいなと思いました。うちは子どもが2人いて食費がかかるので。私自身は正直、あまり細かいことはわからないんですが.....妻が喜んでいたのは覚えています。

M：金子さんご自身は、その話を聞いてどんな気持ちでしたか？妻が喜んでしたこと以外で。

金子博：そうですね.....私の仕事柄、政治的なことはあまり大きな声では言いにくいんですよ。公務員なので。ただ個人として感じたのは、「本当にできるのかな」っていうことですね。消費税ってずっと上がってきたじゃないですか。下げるって言われても、なんか.....ピンとこなかったというか。

M：「本当にできるのかな」と思ったのはなぜですか？

金子博：なんとなく、税金って上がるものだという感覚があるからだと思います。5%から8%になって、8%から10%になって。下げる方向に動いた記憶がないので、発表された時は「珍しいな」と思いました。

M：食料品消費税を1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

金子博：1%ですか.....ゼロって言ってたのに、ということですよ。妻に話したら「え、ゼロじゃないの」って言ってました。私も1%と0%の違いがどのくらいになるのか、正直よくわかっていないんですけど.....1%でも下がるなら、ないよりはいいんじゃないかなとは思っています。

M：「ないよりはいい」というのは、どういう意味ですか？ゼロの方がよかったということですか？

金子博：そりゃ、ゼロの方が助かるとは思いますが。でも.....政治のことはよくわからないし、決めるのは偉い人たちなので。文句を言う立場でもないというか。1%でもやってくれるなら、まあありがたいかなという感じです。

M：なぜ1%という案が出ているか、ご存知ですか？

金子博：いや、知らないです。何か理由があるんですか？

M：はい。スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に時間がかかるためです。0%だと約1年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

金子博：ああ、そういうことか。レジのシステムって、変えるの大変なんですね。消防の仕事でも、新しいシステムや機材が入る時って準備に時間かかるので、なんとなく想像できます。それなら1%の方が早く助かるってことですよね。妻に早く教えてあげようと思います。

M：半年早く1%になる方がいいということですか？

金子博：そう思います。長く待つより、少しでも早く助かる方がいいですよね。うちの生活で言えば、毎月の食費が少しでも下がれば妻も助かると思うので。

M：まだ決まっていなそうです。それを聞いてどう思いますか？

金子博：まだなんですか。早く決まってほしいですね。妻に「まだ決まってないみたいだよ」って伝えたら、がっかりするだろうな。私たちの生活は毎日続いているので、早めに動いてくれると助かります。

Part 2：消費税についての認知・考え

M：消費税についての知識や情報、考えを自由にお話してください。

金子博：消費税ですか.....正直あまり詳しくないんですよね。払ってるな、という感覚はあります。スーパーのレシートを見ると8%って書いてあって、食品は8%で他は10%なんですよね。それはなんとなく知っています。でも、その仕組みがどうなってるかとか、どこに使われてるかとか、そこまではあまり追えていなくて。

M：その情報はどこから？

金子博：レシートで見てる、というのが正直なところですね。あと妻から聞くことが多いですね。妻の方が食費の管理をしてるので、「また高くなった」とか「税金のせいなのか物価のせいなのか」とか、そういう話を妻がしていることがあって。私はそれを聞いている感じです。

M：「税金のせいなのか物価のせいなのか」という話が出たということですが、金子さんはどう思いますか？

金子博：難しいですね。最近食べ物が高いのは感じますが、それが消費税で上がったのか、物が高くなったからなのか.....私にはよくわかりません。妻は「消費税は変わってないのに高くなってる」って言ってたので、物の値段自体が上がってるってことなんだと思いますが。

M：そうですね、食品の消費税は変わっていませんね。それを聞いてどう思いますか？

金子博：じゃあ物価が上がってるってことですよね。それはそれで大変だなと思いますが.....消費税が下がれば、少し楽になることは楽になるんじゃないかな。物価は別の話として、税金分だけでも減れば助かるので。

M：消費税について、他に気になることや思うことはありますか？

金子博：消防士として言うところ——仕事と直接関係する話ではないんですが——国の予算とか、公共サービスの話になると気になります。消防や救急は税金で成り立っているのです。消費税が減ったとして、その分どこかのサービスが削られるとしたら困ると思う。でも、それが消費税と直接つながってるのかどうか、そこはよくわかりません。

M：その感覚——「どこかのサービスが削られるかも」という不安は、どこから来ていますか？

金子博：仕事の感覚です。消防署も、予算が厳しくなると機材の更新が遅れたり、人員が増えなかったりということが出てくるので。税収が減ると公共サービスに影響が出るんじゃないかという心配は、なんとなくあります。ただ、消費税が社会保障に使われてるって話も聞いたことがあって、食料品だけの話なら影響は限定的なのかな、とも思いますけど。

M：消費税が社会保障に使われているという話は、どこから？

金子博：ニュースかな。消費税を上げる時に「社会保障のため」って言ってた気がします。本当にそうなのかわかりませんけど。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

金子博：印象.....難しいですね。公務員なのであまり政治的なことは言いにくいんですが。女性の総理が初めてということで、ニュースになってたのは覚えています。消費税をゼロにするって言ってたのも印象に残っていて。就任してからは.....正直あまりニュースを追えていないです。仕事が不規則なので、24 時間勤務があつたりして、政治のニュースをじっくり見る時間があまりなくて。

M：金子さんの立場——消防士として、また子ども 2 人を育てるお父さんとして——高市総理についてどんなことが気になりますか？

金子博：子どもたちのこと、ですかね。今 13 歳と 10 歳で、これから高校・大学とお金がかかる時期になります。教育費が家計にどう影響するか、そっちの方が正直気になっています。消費税の話もそうですが、教育にかかる費用を支援する政策があるかどうか、親としては関心があります。あと消防の仕事で言えば、公共サービスへの予算が維持されるかどうか。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

金子博：ゼロって言ってたのに 1%になりそうなのは.....まあ、何か事情があるんだろうなとは思いますが。私も仕事で、当初の計画通りにいかないことはあるので。ただ、変わるなら変わるで、なぜそうなったのかを教えてほしいと思います。さっき聞いたレジのシステムの話みたいに、理由があるならわかるので。

M：今の高市総理に一言メッセージを送るとしたら、何と言いますか？

金子博：「家族を守れる社会を作ってください」ですかね。消費税の話に限らず、子どもたちが大きくなっていく社会が安全で安心できるものであってほしいと思っています。消防士として、人の命を守る仕事をしていますが、政治の仕事も根本は同じだと思うので。

M：なぜそのメッセージを伝えたいのですか？

金子博：毎日仕事で人の命に関わっているから、かもしれません。火事や救急の現場に行くと、その人の家族のことを考えます。この人を助けなければ、家族が悲しむと思うと必死になれる。政治も、国民の家族を守るためにあってほしい。消費税が下がって生活が楽になれば、家族が助かる。それだけのことです。

締め

M：奥様とこういった消費税や政治の話をすることはありますか？

金子博：よくします、というより、妻から話しかけてくることが多いですね。私が不規則な勤務から帰ると、「また食材高くなった」「消費税どうなるんだろう」って妻が言って、私が「そうだな」と聞いている感じです。妻の方が生活の変化に敏感で、私はそれを聞いて「大変だな」と思う立場で。深い政治議論はしませんが、生活の話として出てくることはよくあります。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

金子博：.....「家族のためなら助かる」かな。

M：なぜそう思いますか？

金子博：消費税がどうなるかって話も、結局は妻が「助かる」と思えるかどうかが私の判断基準なんです。難しい話はよくわからないし、政治のことは偉い人が決めることだとも思っている。でも、それが妻や子どもの生活を楽しむかどうか——そこだけ見ています。消費税が1%になって食費が少し下がれば、妻の負担が減る。それが私にとっての「いい政治」です。

M：今日話して、言い忘れたことや改めて思ったことはありますか？

金子博：さっき聞いたレジのシステムの話が印象に残りました。そういう理由があって1%になるのなら、なんとなく納得できます。消防の仕事でも、新しい機材や制度を導入する時には準備時間がある。それと似たような話なんだなと思って。政治のことって難しそうで遠い感じがしてたけど、そういう現場の事情があるんだとわかると、少し身近に感じました。あとは、早く決まって欲しいです。妻に早く教えてあげたいので。

No.68 「薬局のシステム更新を見てきたから、1%案の理由はよくわかる——早く始めてほしい」——医療の消費税問題も案じる 39 歳 MR

対象者プロフィール

氏名	若林 誠
居住地	神奈川県横浜市
年齢・性別	39 歳・男性
職業	会社員（製薬・MR）
家族構成	妻（会社員）・子 1 人（5 歳）
政治関心/知識	中／中

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「MR の仕事で薬局や病院を回っていると、調剤システムや電子カルテのシステム更新がどれだけ大変かはよく見えています」と述べた。「全国の薬局がシステムを一斉に変えた時のことを思うと、スーパーのレジも同じくらい大変だと想像できます」と応じた。

推論：薬局・病院のシステム更新を日常的に見ている MR として、レジシステムの説明を自分の業務経験と直接接続した。「全国の薬局がシステムを変えた時」という具体的な比較が、共感の根拠を明確にしている。

FD：若林にとって消費税 1%案への賛成は、薬局・病院のシステム更新を間近に見てきた MR 経験から「1%で半年早く実現できるなら合理的」という論理的な賛同だ。生活者としての食費節約と職業経験からの合理性評価が両立している。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「医療の現場を毎日見ているので、財源の問題は気になりますが、今日の話でシステムの問題とわかって少し安心しました」と述べた。

推論：医療財源への懸念が MR として消費税評価に加わっているが、No.56 近藤由美子（看護師）と同様に「財源問題でない」という確認で安心が生まれた。専門職として財源の問題を先に確認する構造が共通している。

FD：若林における消費税は「家庭では食費節約の問題、医療現場では財源問題」という二重の意味を持つ。MR として毎日医療機関を訪問しているからこそ、消費税削減の財源影響を先に気にする。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品の 1%案は良い方向です。早く始めてください。医療の消費税の問題も一緒に整理してほしいです」がメッセージだと答えた。

推論：消費税 1%案への賛成と、医療の消費税問題（損税構造）への言及が並立している。MR という職業が医療制度の問題を消費税議論に持ち込む接点になっている。

FD：若林の高市評価は「1%案は良い方向、医療の消費税問題も整理して」という二重の要求だ。食料品消費税への生活者としての賛成と、医療の損税問題への MR としての要求が独立して存在している。

【全体総括】

根拠：「1%案の理由はわかった、生活者として早く始めてほしい」と締めた。「薬局のシステム更新の大変さを見ているので、レジシステムの話はよくわかりました」と述べた。

推論：若林を貫く行動原理は「MR として医療システムの実情を知りながら、生活者として食費節約を求め、合理的な理由があれば納得する」だ。医療と生活者の二つの視点が常に並走している。

FD：若林誠を特徴づけるのは「薬局・病院のシステム更新を日常的に見る MR として 1%案の技術的理由に即納得し、生活者として早期実現を求めながら医療の消費税問題も解決してほしいと訴える 39 歳」だ。「全国の薬局がシステムを変えた時のことを思うと」という言葉に、MR の日常業務からレジシステムへの共感が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

若林誠：製薬会社で MR をやっています。医薬品の営業です。妻も会社員で共働きです。子どもが 5 歳で保育園に通っています。仕事は病院や薬局を回って忙しいですが、家族との時間を大事にするようにしています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

若林誠：知っています。高市総理の食料品消費税ゼロの公約も、最近の 1%案も把握しています。

M：知っていることを教えてください。

若林誠：ゼロという公約が出て、1%案になってきているという流れですね。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

若林誠：共働きで子どもが一人なので家計はそれほど厳しくはないですが、子どもが小さいので食費は月 6 万円くらいはかかっています。消費税が下がれば助かりますね。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

若林誠：生活者として食費が下がれば助かると思います。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

若林誠：方向性は良いと思います。ゼロが良かったですが、1%でも下がるなら歓迎します。

M：なぜそう思いますか？

若林誠：子どもが小さくてこれから食費も増えますし、少しでも下がれば助かります。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

若林誠：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

若林誠：驚かないですね。ゼロは現実的に難しいだろうと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

若林誠：評価します。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

若林誠：知りたいです。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

若林誠：知らないです。財政の問題か、あるいは実務的な問題かと思っていましたが。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

若林誠：システムの問題なんですね。MR の仕事で薬局や病院を回っていると、調剤システムや電子カルテのシステム更新がどれだけ大変かはよく見ています。全国の薬局がシステムを一斉に変えた時のことを思うと、スーパーのレジも同じくらい大変だと想像できます。1%で半年早く実現できるなら、その方が合理的ですし、生活者として早い方が助かります。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

若林誠：そうですね。早く始まる方が助かります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

若林誠：早く決めてほしいですね。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

若林誠：食料品が 8% で他が 10% というのは知っています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

若林誠：子どもが小さくてこれから食費は増えていきます。消費税が 1% でも下がれば年間で数千円の節約になりますし、子どもの教育費に回せます。

M：その情報はどこから？

若林誠：自分で計算しています。ニュースも追っています。

M：何か実感として感じているものはありますか？

若林誠：物価上昇は感じています。スーパーで買い物した時に同じものが高くなっているのがわかります。

M：それについてはどう思いますか？

若林誠：消費税が少しでも下がれば助かります。社会保障との兼ね合いも気になりますが、生活者として食費が下がることは歓迎します。医療の現場を毎日見ているので、財源の問題は気になりますが、今日の話でシステムの問題とわかって少し安心しました。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

若林誠：就任前から経済に積極的という印象でした。消費税ゼロの公約は「大きく出た」と思いましたが、実現には色々あるだろうとも思っていました。1%案は現実的な修正ですね。

M：製薬の MR というお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

若林誠：医薬品や医療機器への消費税の扱いが気になります。医療は消費税が非課税ですが、医薬品や医療機器の仕入れには消費税がかかるという制度的な問題があって、医療機関が損税を負担しているという構造があります。食料品消費税の話とは別ですが、医療の現場の税制の問題も解決してほしいと思っています。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

若林誠：方向性は良いと思います。今日のシステムの話聞いて、1%案の理由はわかりました。生活者として早く始めてほしいですし、医療の税制の問題も合わせて考えてほしいです。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと伝えますか？

若林誠：「食料品の 1%案は良い方向です。早く始めてください。医療の消費税の問題も一緒に整理してほしいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

若林誠：生活者として食費が下がれば助かりますし、医療の現場で消費税の問題を見ているので、その点も解決してほしいです。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

若林誠：します。妻は「食費が下がれば助かるね」と言っていました。私が医療の消費税の話をする「難しいね」と言っていました。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

若林誠：「1%案の理由はわかった、生活者として早く始めてほしい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

若林誠：薬局のシステム更新の大変さを見ているので、レジシステムの話はよくわかりました。1%で半年早く始まるなら早い方が助かりますし、子どもの食費が増えていくこれからのことを考えると早く実現してほしいです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

若林誠：今日の話で 1%案の理由がわかりました。生活者として食費が下がれば助かりますし、MR として医療の税制の問題も整理してほしいと改めて思いました。

M：ありがとうございました。

No.69 「保育料もかかる今の時期に、ゼロより 1%で半年早く食費が下がる方がいい——2 歳児の父・33 歳現場監督」

対象者プロフィール

氏名	長谷川 剛
居住地	神奈川県藤沢市
年齢・性別	33 歳・男性
職業	会社員（建設・現場監督）
家族構成	妻（パート）・子 1 人（2 歳）
政治関心/知識	低/低

3 ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「2 歳の子どもがいる今の時期に早く始まってほしいので、1%で半年早く始まる方が助かります」と述べた。「保育料もかかっているので、少しでも食費が下がれば家計が楽になります」と語った。

推論：2 歳の子どもと保育料という今の支出の重なりが「今の時期に早く」という動機の根拠になっている。ゼロへの残念感はあるが、「早く助かりたい」という現状の切実さが 1%を選ぶ判断を引き出した。

FD：長谷川にとって消費税 1%案への賛成は、2 歳の子どもを抱えて保育料と食費が重なる今の時期に、少しでも早く家計の負担が減ってほしいという動機から来ている。「2 歳の子どもがいる今の時期」という言葉に、子育てのステージと家計の切実さが重なった判断が出ている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「月 6～7 万円の食費で、1%になれば年間 5 万円くらい違う。保育料が月 4～5 万円かかっている所以、食費が少しでも下がれば助かります」と述べた。

推論：保育料（月 4～5 万円）と食費節約額（年間 5 万円）を同じ文脈で語ることで、消費税節約の意味が保育料という大きな固定費との対比で語られている。日々の買い物は妻が担っており、妻からの情報を通じて物価変動を把握している。

FD：長谷川における消費税は「保育料と食費が重なる今の時期の、保育料との対比で意味が見えてくる家計の助け」として語られる。2 歳の子育て期に特有の出費の重なりが、消費税節約への動機を形成している。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「保育料が高くて、子どもが小さい今の時期は出費が重なっています。食費が少し下がるのはありがたいですが、子育て支援全体も充実してほしいです」と述べた。

推論：高市総理への評価は食料品消費税の方向性への受け入れだが、保育料という今の生活最大課題が並走している。消費税への賛成が「子育て支援全体」という要求の中に位置づけられており、消費税節約は部分的な解決として見られている。

FD：長谷川の高市評価は「食費が下がるのはありがたい、保育料を含む子育て支援全体の充実も求める」という2歳児の父としての複合的な要求だ。消費税節約が子育て支援という大きな課題の一部として語られている。

【全体総括】

根拠：「保育料もかかる今の時期に、ゼロより1%で半年早く食費が下がる方がいい」と締めた。「2歳の子どもがいて食費と保育料が重なっています」という言葉が動機の背景を示している。

推論：長谷川を貫く行動原理は「2歳の子どもの保育料と食費が重なる今の支出の厳しい時期に、ゼロより半年早い1%を家計の現実から支持する」だ。保育料と食費節約を同じ文脈で語ることに、今の生活負担の重さが出ている。

FD：長谷川剛を特徴づけるのは「2歳の子どもの保育料月4〜5万円と食費月6〜7万円が重なる今の時期に、消費税節約を保育料との対比で語りながら、ゼロより半年早い1%を今の生活に合った選択として支持した33歳」だ。「保育料もかかる今の時期」という言葉に、子育て初期の出費の重なりへの実感が出ている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

長谷川剛：建設会社で現場監督をしています。妻と2歳の子どもがいます。藤沢市に住んでいます。子どもが生まれてから出費が増えて、妻もパートで働いてくれているんですが、物価が上がって家計が厳しくなっています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

長谷川剛：知っています。高市総理が食料品の消費税をゼロにするとか、最近は1%案が出てきているという話ですね。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

長谷川剛：食費は月 6～7 万円くらいかかっています。物価が上がっているので、同じものを買っていても前より高くなっています。消費税が下がれば助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

長谷川剛：助かります。8%から 1%になれば月 4,000～5,000 円くらい変わります。2 歳の子どもがいて保育料もかかっているんで、少しでも食費が下がれば家計が楽になります。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

長谷川剛：ぼんやり覚えています。ゼロになったら良かったなと思います。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

長谷川剛：少し残念ですが、驚かなかったです。何か事情があるんだろうと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

長谷川剛：評価します。8%より全然いいです。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

長谷川剛：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

長谷川剛：そういう理由なんですね。確かに全国のスーパーのレジを変えるのは大変そうです。2 歳の子どもがいる今の時期に早く始まってほしいので、1%で半年早く始まる方が助かります。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

長谷川剛：そうですね。早い方が助かります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

長谷川剛：早く決まってほしいです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

長谷川剛：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。レシートで確認できるので。あまり詳しくはないですが。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

長谷川剛：月 6〜7 万円かかっています。1%になれば年間で 5 万円くらい違いますよね。保育料が月 4〜5 万円かかっているの、食費が少しでも下がれば助かります。

M：その情報はどこから？

長谷川剛：ニュースで見ました。妻からも聞きます。妻が日々の買い物をしているので、物価変化は妻の方が詳しいです。

M：何か実感として感じているものはありますか？

長谷川剛：物価が上がっているのは実感しています。スーパーで同じものが前より高くなっているのがわかります。食費と保育料が重なっている今の時期、消費税が下がれば少し余裕ができます。

M：それについてはどう思いますか？

長谷川剛：少しでも食費が下がれば助かります。今は支出が多い時期なので。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

長谷川剛：就任してから「女性の総理」という印象でした。食料品の消費税の話は家計として良いと思います。

M：2 歳のお子さんを育てながら現場監督として働いている父親という立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

長谷川剛：子育て支援がどうなるかは気になります。保育料が高くて、子どもが小さい今の時期は出費が重なっています。食費が少し下がるのはありがたいですが、子育て支援全体も充実してほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

長谷川剛：方向性は良いと思います。今日の話でシステムの問題だとわかって、1%案の理由が理解できました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

長谷川剛：「食費が少し下がれば家計として助かります。1%でも早く始めてほしいです。子育て支援も充実させてほしいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

長谷川剛：2 歳の子どもがいて保育料もかかっています。食費が少しでも下がれば、その分が保育料や子どものために使えます。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

長谷川剛：します。妻も「食費が下がれば助かる」と言っています。家計のことはよく二人で話します。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

長谷川剛：「保育料もかかる今の時期に、ゼロより 1%で半年早く食費が下がる方がいい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

長谷川剛：2 歳の子どもがいて食費と保育料が重なっています。システムの問題で半年早く始まるなら、1%の方が今の生活には良いです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

長谷川剛：今日の話でシステムの問題だとわかって良かったです。早く確定してほしいです。

M：ありがとうございました。

No.70 「財源の問題でないとわかって安心した、1%案で老後の社会保障も守ってほしい」——定年前に年金・医療費を案じる 49 歳 商社総務

対象者プロフィール

氏名	富田 哲夫
居住地	神奈川県横浜市
年齢・性別	49 歳・男性
職業	定年前会社員（大手商社・総務）
家族構成	妻（専業主婦）・子 2 人（22 歳・19 歳）
政治関心/知識	高／高

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「総務の仕事で会社の基幹システムの更新に何度も関わってきたので、大規模なシステム変更がどれだけ時間とコストがかかるかはよくわかります」と述べた。「財政の問題でなくシステムの問題というのは、社会保障への影響という意味でも安心しました」と応じた。

推論：商社総務での基幹システム更新経験がレジシステム説明への即座の理解を生んでいる。食費より老後の社会保障への影響が先に来る評価軸が出発点にあり、「財源問題でない」という確認が安心の根拠になっている。

FD：富田にとって消費税 1%案への賛成は、総務経験からシステム理由に即納得し、かつ老後の社会保障財源への影響でないとわかったことで安心が生まれた条件付き賛成だ。食費節約より老後の安心が評価の軸になっている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「消費税の財源が社会保障に使われているという理解があるので、消費税が下がることが年金や医療に影響しないかが気になっていました。今日の話で財源の問題でなくシステムの問題とわかったのは、老後を控えた立場からは安心できる情報でした」と述べた。

推論：消費税削減を老後の社会保障維持という観点で先に評価しており、食費節約より年金・医療への影響の方が関心事として大きい。「老後を控えた立場からは安心できる」という言葉に、個人の経済的保全への関心が凝縮されている。

FD：富田における消費税は「生活費節約の問題より老後の社会保障財源の問題」として先に位置づけられている。長年の総務経験と定年前の立場が交わって、制度の持続性という評価軸が食費節約より優先されている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品の 1%案は良い方向です。財源の手当てをどうするかも合わせて説明してください。老後の社会保障が維持されるかどうかは気になっています」がメッセージだと答えた。

推論：消費税 1%案への賛成と、老後の社会保障財源の手当てへの要求が並立している。近藤由美子（医療財源）・菊池昭夫（教育財源）と同じ「財源手当て要求」の構造だが、富田の場合は個人の老後保障という私的な利害が前面に出ている。

FD：富田の高市評価は「1%案の方向性は良いが、老後の社会保障財源の手当て説明を」という条件付き支持だ。食費節約への賛成は定年後の生活設計という文脈に置かれており、制度の持続性への関心が評価の核心だ。

【全体総括】

根拠：「財源の問題でないとわかって安心した、老後の社会保障の手当ても合わせて説明を」と締めた。「定年後の生活設計のためにも、早く確定してほしいと思います」と述べた。

推論：富田を貫く行動原理は「定年前の立場から老後の社会保障への影響を先に確認し、安心を得てから生活者として賛成する」だ。商社総務でのシステム経験と定年前の立場が交わって、合理的な評価と老後への不安が同居している。

FD：富田哲夫を特徴づけるのは「商社総務での基幹システム更新経験からレジシステム理由に即納得し、老後の社会保障への影響でないとわかって安心しながら、財源の手当て説明も求める 49 歳定年前会社員」だ。「財源の問題でないとわかったのは老後を控えた立場からは安心できる情報でした」という言葉に、定年前の緊張感が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

富田哲夫：大手商社の総務部門に長く勤めていて、あと数年で定年です。妻は専業主婦で、子どもが二人いますがもう社会人になりました。これからは老後のことを考える時期になってきます。年金がどうなるか、医療費がどうなるかが最近の関心事ですね。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

富田哲夫：もちろんです。高市総理の食料品消費税ゼロの公約も、最近の 1%案も把握しています。

M：知っていることを教えてください。

富田哲夫：ゼロという大きな公約が出て、現実的な 1%案に落ち着いてきているという流れですね。消費税については会社の総務で制度変更のたびに対応してきたので、制度の変化には敏感です。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

富田哲夫：子どもが独立して夫婦二人になったので、食費はそれほどかかっていません。月 4〜5 万円程度です。消費税が 1%下がっても生活への影響は限定的です。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

富田哲夫：方向性としては良いことだとは思いますが。ただ食費よりも老後の社会保障の方が今は関心が高くて、消費税が下がることが社会保障の財源にどう影響するかが気になります。

M：今日は家庭の食費という観点でお聞きしています。食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、生活者としてどう思いますか？

富田哲夫：生活者来说、下がることは悪くないと思います。少しでも節約になれば老後の備えに回せます。

M：なぜそう思いますか？

富田哲夫：定年後の生活を考えると、少しでも家計の節約になれば助かります。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

富田哲夫：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

富田哲夫：驚かないですね。ゼロにするには様々な障壁があることは最初からわかっていたので。制度変更のたびに総務で対応してきた経験から、税率変更がどれだけ大変かはよく知っています。

M：1%になったとしたら評価しますか？

富田哲夫：方向性は評価します。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

富田哲夫：知りたいです。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

富田哲夫：財政的な問題か、実務的な問題があると思っていましたが、正確には知りません。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

富田哲夫：なるほど、POS システムの改修ですか。総務の仕事で会社の基幹システムの更新に何度も関わってきたので、大規模なシステム変更がどれだけ時間とコストがかかるかはよくわかります。全国のスーパーのレジを一斉に対応させるとなれば、1 年かかるのは納得できます。1%で半年早く実現できるなら合理的な判断だと思います。財政の問題でなくシステムの問題というのは、社会保障への影響という意味でも安心しました。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

富田哲夫：そうですね。財源の問題でないわかりましたし、早く実現した方が良いです。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

富田哲夫：早く決めてほしいですね。定年後の生活設計のためにも、政策が早く確定した方が計画を立てやすいです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

富田哲夫：消費税の仕組みは詳しく知っています。軽減税率の仕組みから社会保障財源としての役割まで。総務の仕事で税制変更のたびに社内対応を担当してきました。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

富田哲夫：夫婦二人で食費は月 4～5 万円です。消費税が 1%下がれば年間で数千円の節約になります。老後の蓄えという意味では助かりますが、現役世代の頃より影響は小さいです。

M：その情報はどこから？

富田哲夫：ニュースや経済情報を日常的に追っています。長年の総務経験から税制への関心は高いです。

M：何か実感として感じているものはありますか？

富田哲夫：物価上昇は感じています。ただ現役の頃ほど生活への切迫感はありません。老後の医療費や年金の方が今は大きな関心事です。

M：それについてはどう思いますか？

富田哲夫：消費税の財源が社会保障に使われているという理解があるので、消費税が下がることが年金や医療に影響しないかが気になっていました。今日の話で財源の問題でなくシステムの問題とわかったのは、老後を控えた立場からは安心できる情報でした。生活者として食費が下がることは助かります。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

富田哲夫：就任前から経済に積極的という印象でした。消費税ゼロの公約は「大きく出た」と思いましたが、総務経験から実現の難しさもわかっていました。1%案は現実的な修正だと思いますし、今日の理由を聞いて納得しました。

M：定年を控えているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

富田哲夫：年金と医療の持続性が一番気になります。消費税の財源が社会保障に充てられているので、消費税が下がることで老後の生活保障がどうなるかを心配していました。今日の話でシステムの問題とわかって少し安心しましたが、財源の手当てがどうなるかも合わせて説明してほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

富田哲夫：方向性は良いと思います。今日の理由を聞いて、技術的な根拠があることはわかりました。財源の手当てについても合わせて説明があると、老後を控えた世代として安心できます。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

富田哲夫：「食料品の1%案は良い方向です。財源の手当てをどうするかも合わせて説明してください。老後の社会保障が維持されるかどうかが気になっています」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

富田哲夫：定年が近づいて年金や医療の持続性への関心が高まっています。消費税が下がること自体は歓迎しますが、社会保障の財源がどうなるかのセットでの説明が必要だと思います。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

富田哲夫：します。妻は「食費が下がれば助かるね」と言っていました。私が老後の財源の話をする「難しいね」と言っていました。今日の話伝えようと思います。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

富田哲夫：「財源の問題でないとわかって安心した、老後の社会保障の手当ても合わせて説明を」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

富田哲夫：会社のシステム更新を何度も経験してきたので、レジシステムの話はよくわかりました。財源の問題でないとわかったことは老後を控えた立場として安心できました。食費が1%でも下がれば老後の備えに少し回せます。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

富田哲夫：長年総務をやってきたので、制度変更のたびに現場が大変だということはよくわかります。今日の 1%案の理由は納得できます。定年後の生活設計のためにも、早く確定してほしいと思います。

M：ありがとうございました。

No.71 理由を見せてくれば、受け入れられる——IT 系 PM の 38 歳が、消費税ゼロから 1%への変更に「なるほど」

対象者プロフィール

氏名	岡本 綾子
居住地	神奈川県横浜市
年齢・性別	38 歳・女性
職業	会社員（IT・プロジェクトマネージャー）
世帯年収	約 1,350 万（共働き）
家族構成	夫（IT 企業）・子 1 人（6 歳）
政治関心/知識	中／高

3 分ブリーフィング

【1. 導入】

根拠：「本当に実装できるのかな、と思った。全国のレジシステムを変えるのがどれだけ大変か想像できる」と最初に語った。政策への賛否より実装可能性を先に評価した。

推論：岡本の第一反応は「生活者として賛成か反対か」ではなく「IT の専門家として実現可能かどうか」だ。職業的なフレームが政治への入口を規定しており、「政策の方向性」より「政策の設計・実装」に関心が向く。

FD：食料品消費税の議論を「政策論」でも「生活費の問題」でもなく「実装プロジェクト」として最初に捉えるパネルだ。この認知の入口が、インタビュー全体を貫く独自の評価軸を形成している。

【2. Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「1%案の理由はシステムの問題だと仮説を持って見ていた」と述べ、理由の説明を受けて「やっぱりそうでしたか。半年の差は大きい。1%案の方が現実的な判断」と即座に評価した。ただし「本当は国民に選ばせてほしかった」とも語った。

推論：1%案への評価は技術的根拠から来ており、他のパネルとは異なる確信の経路を持っている。ただし「政策変更の透明性」という別の問題意識が同時にある。実装の合理性は認めながら、プロセスの不透明さへの批判が並走している。

FD：消費税 1%案を「技術的に合理的」と評価できる唯一のパネルだ。ただしその評価は「実装の妥当性」であり、「公約変更のプロセス」への批判は別に存在する。結果への理解とプロセスへの不満が同居している。

【3. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「軽減税率は設計として複雑すぎる。税率変更のたびに現場の改修コストがかかる実態を仕事上で知っている」と述べた。逆進性対策としての食料品減税についても「給付つき税額控除の方が効率的だが、制度の複雑化とのトレードオフがある」と語った。

推論：消費税の制度設計への批判が、「不公平感」ではなく「設計品質」という観点から来ている。軽減税率の曖昧な線引き・インボイスの事務負担増・財源使途の可視化不足——いずれも「実装品質の低さ」として評価されている。

FD：消費税の問題を「制度設計の品質問題」として捉えるパネルだ。感情的な不満ではなく、設計・実装・コミュニケーションという観点で評価する。知識は高いが、それは「制度への批判のための知識」ではなく「設計者目線での評価のための知識」だ。

【4. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「判断自体は悪くない。ただ決定のプロセスを見せてほしい。根拠が示されれば批判より理解が先に来る」と述べた。メッセージは「決定のプロセスを見せてください」。

推論：高市への評価は「判断の中身」と「判断のプロセス」を分離して行われている。1%案は合理的と評価しながら、そのプロセスへの批判は別に持つ。「判断力はあると思うのに根拠を示すのが苦手」という表現に、岡本の評価基準が端的に示されている。

FD：高市評価の軸が「女性かどうか」でも「生活への配慮」でもなく「意思決定のプロセス品質」にある。結果への理解とプロセスへの批判が分離して共存する点で、他のパネルと質的に異なる。

【全体総括】

根拠：締めの一言は「理由を見せてくれれば、受け入れられる」。「今日話して、頭で考えてきたことと生活者としての感覚が初めて一致した」と語った。

推論：岡本はインタビュー全体を通じて、IT 専門家としての評価軸と生活者・親としての感覚が分離して存在していた。終盤に「生活者としての自分が案外受け入れていることに気づいた」と語ったことで、この2つの自分が統合された。

FD：技術的知識と生活者感覚を両方持ちながら、インタビュー開始時点では技術者目線が前面にあった。しかし「6歳の子どもの食費、毎月かかっている」という締めの言葉に生活者としての本音が出た。消費税議論を「実装品質」で評価しながら、最後は「子どもの食費」に落ちた——これがこのパネルの核心だ。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：岡本さん、今日はよろしくお願いします。正解のない話ですので、思ったことをそのままお話しください。最近、食料品の消費税についての議論が出ていますが、ご存知でしたか？

岡本綾子：知っています。高市総理の公約がゼロで、今は 1%案が浮上しているという話ですね。ニュースで追っています。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

岡本綾子：最初に公約を聞いた時は、正直「本当に実装できるのかな」って思いました。仕事でシステム開発に関わっているので、税率をゼロにするというのがどれだけ影響範囲の大きい変更か、なんとなく想像できて。全国のスーパーやコンビニのレジシステムを変えるって、簡単じゃないと思ったんですよね。

M：政策として、どう感じましたか？

岡本綾子：方向性としては歓迎です。家庭の食費という観点では助かる。6 歳の子どもがいるので食費はかかりますし。ただ、「できる」「できない」より「どう実装するか」に頭が向いてしまうのが私の癖で.....政策の中身より、どう現場に落とすかを先に考えてしまいます。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

岡本綾子：1%案が出た理由は、おそらくシステムの問題ですね。0 という値はシステム的に「存在しない」として扱われるケースがあって、全部 0 に書き換えるより 1 という値を設定する方が既存の仕組みを生かしやすい。私はその仮説を持って見ていました。

M：その認識は正しいです。0%だとシステム改修に約 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。改めてそれを聞いてどう思いますか？

岡本綾子：やっぱりそうでしたか。半年の差は大きいですよ。システム開発では、要件定義から本番稼働まで半年違うと、関わる人員も予算も全然違う。スーパー各社が独自にシステムを持っている中で、それを全部 0 対応にするのと 1 対応にするのとでは、難易度が全く違います。1%案の方が現実的な判断だと思います。

M：ゼロの公約が 1%になることについてはどう感じますか？

岡本綾子：技術的な理由は理解できるんですが.....「公約との乖離をどう説明するか」という部分が弱いと思っています。システムの制約でこうなりましたという説明を、わかりやすく国民に伝えるのが政治の仕事だと思うので。理由は正当だけど、コミュニケーションが足りていない。

M：半年早い 1%の方がいいということですか？

岡本綾子：生活者としては半年早く恩恵を受けられる方がいいです。システム屋としては、1%の方が安全な実装だと思う。ただ——これは個人的な考えですが——本当は「ゼロにするという理想と、半年早く 1%にするという現実、どちらを選びますか？」と国民に説明した上で選ばせてほしかった。政策変更の透明性の問題です。

M：まだ決まっていないそうです。それを聞いてどう思いますか？

岡本綾子：決まっていらないのはわかる気がします。関係省庁や業界団体との調整があるはずで、簡単に決められる話ではない。ただ、決まらない間も国民には「今どういう状況か」を見せてほしい。プロジェクトで言えば、ステータスの見える化ですね。今何が課題で、いつまでに何を決めるのかを示してほしい。

Part 2：消費税についての認知・考え

M：消費税についての知識や情報、考えを自由にお話してください。

岡本綾子：消費税は、仕組みとしてはある程度理解しています。多段階課税の仕組み、インボイス制度、軽減税率の線引き問題。特に軽減税率は、線引きが曖昧で現場の混乱を招いた制度だと思っています。「外食は10%、持ち帰りは8%」みたいな区別って、現場で判断するのが難しい。設計として複雑すぎると思います。

M：その情報はどこから？

岡本綾子：ニュースと、あとは仕事の中で関わることがあります。クライアントが小売業の場合、税率変更のたびにシステム改修の話が出てきて。軽減税率が入った時も、対応コストがかなりかかりました。だから制度変更のたびに現場が大変になるという実態は、仕事上でリアルに知っています。

M：実感として感じていることはありますか？

岡本綾子：食費は上がっていますね。ただ私の場合、消費税が原因というより円安・原材料高が主因だと思っています。消費税は変わっていないので。家計への影響は、消費税より物価全体の方が大きい。ただ、食料品の消費税が1%下がれば、年間で計算するとそれなりの金額になるので、ゼロじゃないインパクトはあると思っています。

M：消費税が社会保障財源であることについてはどう考えていますか？

岡本綾子：消費税と社会保障財源の紐付けは、設計としては理解できます。ただ「消費税を上げたから社会保障が充実した」という実感が国民にないのは、使途の可視化が不十分だからだと思っています。企業で言えば、予算の使い道をステークホルダーに示すのは当然で、それが政府にできていない。食料品の消費税を下げる場合も、その分どこから財源を確保するのかを示してほしい。示さないままだと「また誰かが困る」という不安が残ります。

M：消費税について他に気になることはありますか？

岡本綾子：逆進性の問題は重要だと思いますが、食料品の税率を下げるだけでは解決しないとも思っています。本当に低所得層を支援するなら、給付つき税額控除の方が的確に届く。食料品の税率を下げるも富裕層も同じ恩恵を受けるので、再分配としての効率は低い。ただ制度がシンプルであることも大事で、複雑な制度は運用コストが高い。どちらを優先するかはトレードオフです。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

岡本綾子：就任前は経済安全保障や技術政策に詳しいイメージで、その分野は期待していました。女性初の総理という点は、象徴的な意味はあると思いますが、それ自体が評価基準ではないと思っています。就任後は——消費税の話を含めて——「やりたいことと実行できることのギャップ」が見えてきた印象です。

M：その感覚はどこから来ていますか？

岡本綾子：公約と現実の乖離が、説明なく起きていることです。消費税ゼロが1%になるのは、理由があれば理解できます。ただそのプロセスが見えない。組織のマネジメントで言えば、目標を変更する時は理由と代替案をチームに示すのが基本で。それが政治でできていないと、信頼が積み上がらない。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

岡本綾子：判断自体は悪くないと思います。0より1の方が早く実装できて、生活者が半年早く恩恵を受けられる——それは合理的な判断です。ただ、その判断を国民に説明するコミュニケーションが足りていない。「なぜ変えたか」より「どうするか」ばかり話している印象があります。

M：今の高市総理に一言メッセージを送るとしたら、何と言いますか？

岡本綾子：「決定のプロセスを見せてください」ですね。何を決めたかより、なぜそう決めたかのロジックを国民に示してほしい。ITの世界でも、良い設計は根拠が説明できる。政策も同じで、根拠が示されれば批判は減るし、信頼は上がる。消費税1%案も、理由を先に説明していれば、もっと受け入れられたと思います。

M：なぜそのメッセージを伝えたいのですか？

岡本綾子：プロセスの透明性がないと、判断が正しくても信頼されないからです。仕事で実感していますが、「なぜそう決めたか」を示せる人とそうでない人では、周囲の信頼度が全然違う。高市総理は判断力はあると思うのに、その根拠を示すのが苦手なのかなという印象があつて。もったいないと感じています。

締め

M：ご主人とこういった話をすることはありますか？

岡本綾子：よくします。夫もIT系なので、消費税の話になるとシステムの観点から話すことが多くて。「レジシステムの改修って大変だよな」という話になったり。政治の話というより、実装の話になりますね。子どもが寝た後に「結局1%になりそうだね」「システム理由なら仕方ないね」みたいな会話はしました。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

岡本綾子：「理由を見せてくれれば、受け入れられる」かな。

M：なぜそう思いますか？

岡本綾子：今日の話の中で、レジシステムの理由を聞いて「なるほど」と思った瞬間があったんですよ。理由がわかれば、結果が想定と違ってでも納得できる。それは仕事でも生活でも同じで。政治も、理由を示してくれれば批判より理解が先に来る。消費税 1%案も、最初からその説明があれば今と全然違う受け止めになっていたと思います。

M：今日話して、言い忘れたことや改めて思ったことはありますか？

岡本綾子：消費税の 1%案、私はシステム的な理由で「仕方ない」と思っていたんですが、今日話して、生活者としての自分が案外それを受け入れていることに気づきました。ゼロの方がよかったけど、1%でも半年早く来るなら、それはそれでいい。頭で考えてきたことと、生活者としての感覚が、今日初めて一致した気がします。あとは、早く決めてほしいです。6 歳の子どもの食費、毎月かかっているの。

No.72 何もないより全然いい——1%への計算より、下がるという事実を求める0歳児の母

対象者プロフィール

氏名	谷川 麻里
居住地	川崎市（神奈川県）
年齢	31 歳・女性
職業	専業主婦
世帯年収	約 480 万
家族構成	夫（会社員）・子 2 人（3 歳・0 歳）

3 ブリーフィング

【Part 1】根拠：消費税の議論は「夫から聞いた」という形で認知しており、自分から情報を取りに行っていない。1%案に「ゼロじゃないんですね」と反応しつつも、「下がるなら嬉しい」と述べた。「ゼロじゃない」という言葉を深掘りすると「どのくらい安くなるのか計算できない」という認知の不明確さが出た。公約（ゼロ）については「言ったことが変わることが多い」「期待しすぎると裏切られる」と夫の言葉を借りて距離を置いた。システム理由を聞いて「仕方ない、半年で下がる方がいい」と軟化。／推論：政治情報の受信は夫を介した間接的なもので、自分の判断軸が形成されていない。期待と諦めが混在しているが、諦めは夫から移植された可能性がある。／FD：情報の入口が夫に依存しており、政治評価も夫の言葉に引っ張られやすい構造がある。

【Part 2】根拠：「情報が夫頼みになってるのはよくないとは思っている」と自覚しながらも「育児が落ち着いたら」と先送りになっている。「おむつとかミルクって食料品じゃないから 10%」という誤認（粉ミルクは実際 8%）があったが、その背景には「子育てしているほど税負担が重い」という実感がある。食料品の軽減税率の恩恵が育児用品には届かないという「子育て消費税」感覚が自然な言葉で語られた。／推論：消費税を食料品単体ではなく「育児コスト全体」として捉えており、軽減税率の対象外である育児用品への負担感が強い。事実の誤認ではあるが、「子育て家庭が税制の恩恵を受けにくい」という認知構造はインサイトとして有効。／FD：「子育て消費税」——食料品消費税の議論が育児用品の税負担問題と接続されている。この層への訴求には食料品だけでなく育児用品も含めた文脈が必要。

【Part 3】根拠：高市総理就任時に「女性だから子育て・女性問題に力を入れてくれるかも」と期待したが、具体的な変化はまだわからないと述べた。消費税より「保育園がもっと入りやすくなるか」の方が切実と語った。メッセージは「子育て中の家庭のことを見てほしい」で、「情報が届かないと気づいたら損してた」という不安も示した。夫との消費税の議論は「そうなんだ」で終わる浅いもの。／推論：高市総理への期待は「女性」という属性への期待であり、政策内容への評価ではない。消費税よりも保育・育児環境の改善が優先課題であり、食料品消費税単独の議論はこの層の本質的な関心に届いていない。／FD：政治との接点は「子育て支援」であり、消費税はその文脈の中でのみ自分事になる。

【全体総括】根拠：「子育て中は政治のことを考える余裕がない、でも一番影響を受けてる」という締め言葉が核心。情報は夫頼み、判断軸も夫の言葉に依存しやすい構造がある。一方で「子育て消費税」という独自の感覚を持っており、育児用品への税負担という視点は制度の盲点を突いている。／推論：育児という生活状況が政治への関与を物理的に遮断しており、最も影響を受けるはずの層が最も情報から遠い、という逆説的な構造にある。／FD：この層への政策訴求は「食料品消費税」単独では不十分。育児用品・保育・女性支援を含めた総合的な文脈で届けることが必要。

発言録

【導入】

M：谷川さん、今日はお時間いただきありがとうございます。正解・不正解はありませんので、日頃感じていることをそのままお話しください。最近の生活で気になっていることや、関心があることは何かありますか？

谷川麻里：「そうですね.....下の子がまだ0歳なので、毎日育児でいっぱい입니다。上の子の幼稚園の送り迎えもあって、ニュースもゆっくり見られないし。気になることといえば、スーパーの値段が高くなってるなどは感じます。離乳食の食材とか、おむつとか、毎日買うものがじわじわ高くなって。」

【Part 1】食料品消費税の議論への賛否と理由

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？知っていることを教えてください。

谷川麻里：「なんか.....ゼロにするとかって話、聞いた気がします。夫が言ってたかな。詳しくはわからないけど。」

M：夫から聞いたんですね。どんなことを言っていましたか？

谷川麻里：「「食料品の消費税がなくなるかもしれない」って。「本当にそうになったら助かるね」って話した気がします。でもその後どうなったかは.....育児が忙しくて追えてないです。」

M：その時、谷川さん自身はどう思いましたか？

谷川麻里：「本当にそうならいいなって思いました。毎日スーパーに行って、食材とか日用品とか買うので、消費税が下がれば少し楽になるなって。でも「本当にそうなるのかな」という気持ちもあって。」

M：食料品消費税を1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

谷川麻里：「1%.....ゼロじゃないんですね。でも下がるなら嬉しいです。」

M：「ゼロじゃない」という言葉が出ましたが、1%とゼロでは谷川さんにとって違いはありますか？

谷川麻里：「正直、大きな違いはわかりません。でもゼロって聞いてたのが 1%になったという事は.....やっぱり思ったより下がらないんだなって感じはします。ゼロの方が聞こえがいいというか、わかりやすいというか。1%って言われると、どのくらい安くなるのかすぐ計算できなくて。」

M：なぜそう思いますか？

谷川麻里：「毎日の買い物で、少しでも安くなれば助かるから。下の子のミルクとかおむつとか、食材とか、毎日買うものが多くて。1%でも、毎日のことだから積み重なれば違うのかなって。でも正直、生活が大きく変わるほどかはわかりません。」

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

谷川麻里：「夫から聞いた話がそれですかね。高市さんが言ってたんですよ。なんとなく覚えてます。」

M：それが 1%になりそうという話です。どう思いますか？

谷川麻里：「やっぱり変わるんだなって.....。ゼロって言ってたのに、って気持ちはあります。でも何もないよりはいいので、1%でも実現してほしいです。」

M：なぜ「やっぱり」と思ったんですか？

谷川麻里：「政治家の人って、言ったことが変わることが多い気がして。夫もよく「どうせ変わらないよ」って言うので、なんとなくそういうイメージがあります。期待しすぎると裏切られる感じがするので、最初から「そこまで信じなくていいか」って気持ちがどこかにあって。」

M：では 1%になったとしたら評価しますか？

谷川麻里：「します。ゼロじゃなくても、少しでも下げてくれたなら。何もしないよりは全然いいと思います。」

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

谷川麻里：「わかりません。なんで 1%なんですか？」

M：実は、スーパーなどのレジシステムをゼロに対応させる改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

谷川麻里：「そういう理由があったんですね。知らなかったです。システムの問題か.....。それなら仕方ないのかなって思います。早く実現してほしいから、半年で 1%の方が現実的にはありがたいかもしれないです。」

M：半年早いなら 1%の方がいいということですか？

谷川麻里：「そうですね。1 年も待つより半年で少し下がってくれる方がいいです。毎日の買い物のことを考えると。」

M：まだ決まったわけではなく、今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

谷川麻里：「えっ、まだ決まってないんですか.....。早く決めてほしいですね。育児でバタバタしていると、そういう話がどこまで進んでるかわからなくて。なくなったりしないといいんですけど。」

【Part 2】消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税について、日頃どのような知識や情報をお持ちですか？また、どのようにお考えですか？自由にお話してください。

谷川麻里：「消費税.....食料品は 8%で、それ以外は 10%ですね。スーパーのレシートで見るとそこは知ってます。でも細かい仕組みとかはよくわからなくて。社会保障のために使われているって聞くけど、実感がないというか。下の子が生まれてから特に物入りで、消費税って結構取られてるんだと思うことはあります。」

M：その情報はどこから？

谷川麻里：「テレビと、あとは夫から聞くことが多いです。私は育児で手一杯でニュースをちゃんと見る時間がないので。夫が「こんな話があった」って教えてくれて、「そうなんだ」って感じで。自分から情報を取りに行く余裕がないです。」

M：それについてどう思いますか？

谷川麻里：「情報が夫頼みになってるのは.....よくないとは思ってるんですけど。育児が落ち着いたらちゃんと自分でも見ようと思って。でも今は正直、消費税がどうか政治がどうか、考える余裕がなくて。目の前の育児と家事で精一杯という感じです。」

M：何か実感として感じているものはありますか？

谷川麻里：「スーパーで買い物するたびに、なんか高くなったなって。特に食材。離乳食用の野菜とか肉とか、ちゃんとしたものを買いたいんですけど、気づいたら金額が増えてて。消費税のせいなのか、食材自体が高くなってるのかはわからないけど、「高くなったな」という感覚はズットあります。赤ちゃんがいると買い物の量が増えるから、余計に感じるのかもしれないです。」

M：赤ちゃんがいると買い物の量が増えると言いましたが、消費税がかかっているものとかからないものの区別は気にしますか？

谷川麻里：「おむつとかミルクって消費税がかかりますよね。食料品じゃないから 10%かな。それが正直きつくて。食料品は 8%でも、育児用品は 10%で、毎月結構な金額になるので.....食料品だけじゃなくて、育児用品も何とかしてほしいなって思うことはあります。」

【Part 3】高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

谷川麻里：「就任したのは知ってます。女性初の総理大臣って話題になってたので、夫と「へえ、女性の総理が生まれたんだね」って話しました。就任前はあまり知らなくて。就任後も.....正直、育児で忙しくてそこまで追えてないんですよね。悪い印象はないけど、どんな人かはまだよくわからないです。」

M：その感覚はどこから来ていると思いますか？

谷川麻里：「情報が少ないからだと思います。夫から聞く話と、たまにテレビで見るくらいで。女性の総理大臣って聞いて、子育てや女性の問題に力を入れてくれるのかなって少し期待はしたんですけど、具体的に何が変わったかはまだわからなくて。」

M：子育てや女性の問題に力を入れてくれるかも」と期待したとおっしゃいましたが、今その期待はどうなっていますか？

谷川麻里：「.....正直、まだわからないです。消費税の話は聞いてたけど、子育て支援がどうなるかとか、保育園がもっと入りやすくなるかとか、そっちの方が私には切実で。消費税が下がるのも嬉しいけど、もっと子育てしやすい環境を作ってほしいなって。」

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

谷川麻里：「ゼロにするって言ってたのは知ってたので、それは嬉しいなって思っていました。でも1%になりそうで、まだ決まってないって聞いて.....「やっぱりそう簡単にはいかないんだな」って。システムの理由があるってことは今日初めて知って、「そういう事情があるなら仕方ないか」とは思いましたけど。もっと早く教えてくれればよかったのになって気持ちはあります。」

M：今の高市総理に一言メッセージを送るとしたら、何と言いますか？

谷川麻里：「「子育て中の家庭のことを見ていてほしい」ですかね。消費税の話もそうだけど、保育園の問題とか、育児用品の高さとか、子どもが小さいと本当にお金がかかって大変で。政治って遠い話に感じるけど、毎日の生活に直結してるので。私みたいに育児で精一杯で情報を追えない人間にも、わかりやすく届けてほしいです。」

M：なぜそう言いたいのか、理由を教えてください。

谷川麻里：「今は育児で手一杯で、政治のことをちゃんと考える余裕がないんです。でも消費税が下がるとか、給付金があるとか、そういうことって自分の生活に直接関わってくる。なのに情報が届かないと、気づいたら損してたってことになりそうで。もっと身近に感じられる形で伝えてほしいなって。」

【締め】

M：旦那さんとこういう話をすることはありますか？

谷川麻里：「消費税の話は.....夫から聞くことはあるけど、深く話し合うことはないですね。「そうなんだ」って受け取るくらいで。今日みたいにちゃんと考えたのは初めてかもしれないです。育児が落ち着いたら、もう少し一緒に話せるといいなとは思いますが。」

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

谷川麻里：「子育て中は政治のことを考える余裕がない、でも一番影響を受けてる」ですかね。消費税が下がっても、おむつや育児用品が高いままだと結局大変で。子育て家庭のことをもっとちゃんと見てほしいな、と改めて思いました。」

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

谷川麻里：「今日話してみて、自分が知らないことが多かったなって。システムの理由とか、初めて聞いて。育児が一段落したら、もう少しちゃんと追いかけてようかなと思いました。あと.....おむつとか育児用品の消費税も、誰かどうにかしてくれないかなって、改めて思いました。」

No.73 「子どもの受験前に 1%案を早く始めてほしい、自営の消費税申告も簡単にして」――整体院を経営する 44 歳主婦

対象者プロフィール

氏名	田中 康子
居住地	神奈川県相模原市
年齢・性別	44 歳・女性
職業	自営業（整体院）
家族構成	夫（会社員）・子 2 人（15 歳・12 歳）
政治関心/知識	中／中

3 ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「整体院でも会計ソフトを変えた時に大変でした。全国のスーパーを一斉に変えるとなると確かに大変ですね」と述べた。「子どもの受験費用が増える前に食費が少しでも下がれば」と応じた。

推論：整体院経営での会計ソフト変更経験がレジシステムへの共感の根拠になっている。家計における最大の懸念が「受験費用が増える前に」という時間的な切迫感で、それが早期実現への強い賛成を生んでいる。

FD：田中にとって消費税 1%案への賛成は、整体院での会計ソフト変更経験からシステム理由に納得しながら、子どもの受験費用が重なる前に家計を楽にしたいという時間的切迫感から来ている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「自営業として消費税の負担も毎年感じているので、食料品の税率が下がることは生活者として歓迎します」と述べた。

推論：整体院経営者として毎年消費税申告の負担を経験しており、消費税への感度は高い。食料品消費税を「生活者として」と明確に切り分けており、経営者と生活者の視点を自分で整理できている。

FD：田中における消費税は「毎年の申告負担を経験する経営者としての問題」と「食費節約を求める生活者としての問題」が並走している。子どもの受験費用という具体的な目標が、食費節約への切実さを生んでいる。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品の 1%案は良い方向です。早く始めてください。自営業者の消費税申告の手続きも少し簡単にしてほしいです」がメッセージだと答えた。

推論：食料品消費税への賛成と、自営業者としての申告手続き簡素化の要求が並立している。生活者としての賛成と経営者としての改善要求が独立して共存している。

FD：田中の高市評価は「1%案は良い、自営業者の申告手続きも簡素化して」という二重の要求だ。食料品消費税への生活者としての賛成は明確だが、整体院経営者としての負担軽減要求も手放さない。

【全体総括】

根拠：「1%案の理由はわかった、子どもの受験前に早く始めてほしい」と締めた。「会計ソフトを変えた経験があるので、システムの話はよくわかりました」と述べた。

推論：田中を貫く行動原理は「整体院経営で消費税と向き合いながら、子どもの受験費用が重なる前に家計を楽にしたい」という時間的切迫感で 1%案を評価する」だ。経営者と生活者の二視点が一貫して並走している。

FD：田中康子の特徴づけるのは「整体院の会計ソフト変更経験からレジシステムに共感し、子どもの受験費用が迫る前に食費を下げたい」という時間的切迫感で 1%案を支持する 44 歳整体院経営者」だ。「子どもの受験費用が増える前に食費が少しでも下がれば」という言葉に、生活者として経営者として二重に消費税と向き合う現実が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

田中康子：整体院を経営しています。夫は会社員で、子どもが 15 歳と 12 歳います。整体院の経営は消費税の申告を自分でやっているのです、消費税の話には敏感です。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

田中康子：知っています。高市総理が食料品の消費税をゼロにするという公約も、最近 1%案が出ているのも把握しています。

M：知っていることを教えてください。

田中康子：ゼロという公約が出て、1%案になってきているという流れですね。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

田中康子：子どもが二人いて食費は月 7～8 万円くらいかかっています。消費税が下がれば家計として助かります。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

田中康子：生活者として食費が下がれば助かると思います。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

田中康子：方向性は良いと思います。ゼロが良かったですが、1%でも下がれば助かります。

M：なぜそう思いますか？

田中康子：子どもが二人いてこれから受験や進学でお金がかかりますし、食費が少しでも下がれば助かります。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

田中康子：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

田中康子：驚かないですね。ゼロにするのは実務的に大変だろうと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

田中康子：評価します。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

田中康子：知りたいです。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

田中康子：知らないです。実務的な問題かと思っていましたが。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

田中康子：レジのシステムを変えるのに時間がかかるんですね。整体院でも会計ソフトを変えた時に大変でした。全国のスーパーを一斉に変えとなると確かに大変ですね。1%で半年早く始まるなら、早い方が家計として助かります。子どもの受験費用が増える前に食費が少しでも下がれば。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

田中康子：そうです。早い方が助かります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

田中康子：早く決めてほしいです。子どもの受験が近づいているので。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

田中康子：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。整体院を経営しているので、毎年消費税の申告・納付の手続きをしています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

田中康子：子どもが二人いて食費は月 7～8 万円です。受験費用が近いうちにかかってくるので、食費が少しでも下がれば受験費用に回せます。

M：その情報はどこから？

田中康子：自分で計算しています。整体院の経営で数字には敏感なので。ニュースも追っています。

M：何か実感として感じているものはありますか？

田中康子：物価上昇は感じています。食材が高くなっているのはスーパーで実感します。整体院でも備品や消耗品の値段が上がっています。

M：それについてはどう思いますか？

田中康子：消費税が少しでも下がれば助かります。自営業として消費税の負担も毎年感じているので、食料品の税率が下がることは生活者として歓迎します。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

田中康子：就任前は経済に積極的という印象でした。消費税ゼロの公約は「良いな」と思いましたが、現実的にどうなるかは見ていました。1%案になったのは現実的な修正ですね。

M：整体院を営んでいるお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

田中康子：消費税の簡素化が気になります。整体院は医療類似行為として消費税がかかる部分があって、毎年申告が大変です。食料品の消費税が変わると、軽減税率の線引きが複雑になるのではないかと心配もあります。ただ生活者として食費が下がることは歓迎します。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

田中康子：方向性は良いと思います。今日の理由を聞いて、1%案の合理性はわかりました。早く始めてほしいですし、消費税の申告手続きも簡素化してほしいです。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

田中康子：「食料品の 1%案は良い方向です。早く始めてください。自営業者の消費税申告の手続きも少し簡単にしてほしいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

田中康子：生活者として食費が下がれば助かりますし、整体院の経営者として毎年の消費税申告が大変なので、その点も改善してほしいです。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

田中康子：します。夫は「食費が下がれば助かるね」と言っていました。私が消費税申告の話をすると「大変そうだね」と言っていました。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

田中康子：「1%案の理由はわかった、子どもの受験前に早く始めてほしい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

田中康子：会計ソフトを変えた経験があるので、システムの話はよくわかりました。1%で半年早く始まるなら早い方がいいです。子どもの受験費用が重なる前に食費が少しでも下がれば、家計として助かります。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

田中康子：今日の話で 1%案の理由がわかりました。生活者として食費が下がることは嬉しいですし、自営業者として消費税の手続きの問題も一緒に整理してほしいと思います。

M：ありがとうございました。

No.74 「受験費用と食費が重なって今が一番大変、1%案を早く始めてほしい」——医療事務で現場を知る 47 歳パート

対象者プロフィール

氏名	西野 美智恵
居住地	神奈川県横浜市
年齢・性別	47 歳・女性
職業	パート（医療事務）
家族構成	夫（会社員）・子 2 人（18 歳・15 歳）
政治関心/知識	中／中

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「医療事務をやっているので、病院のシステムが変わるたびに覚え直しが大変というのはよくわかります。医療の電子カルテや請求システムも定期的に更新があって、そのたびに研修があります」と述べた。「受験費用がかかっている今が一番大変なので」と応じた。

推論：医療事務でのシステム更新経験がレジシステムへの即座の共感を生んでいる。「受験費用がかかっている今が一番大変」という時間軸が、半年でも早く実現してほしいという賛成の切実さを生んでいる。

FD：西野にとって消費税 1%案への賛成は、医療事務でのシステム更新経験からシステム理由に即納得し、上の子の大学受験費用と食費が重なる今この時期に早く始まってほしいという切実さから来ている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「上の子の受験費用と重なっているので本当に毎月大変です。消費税が 1%でも下がれば年間で 1 万円近く違ってくるので、助かります」と述べた。

推論：年間 1 万円という計算が即座に出てきており、家計管理の実践から来ている。受験費用という具体的な目標が消費税節約の使途として明確に定まっており、「受験費用に回せる」という動機が賛成の根拠になっている。

FD：西野における消費税は「受験費用に使える節約手段」として極めて具体的な意味を持つ。医療事務の現場知識（医療は非課税・仕入れは課税）は持っているが、今の評価は受験費用という個人の生活課題に集中している。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品の 1%案は助かります。早く始めてください。受験費用と食費が重なって今が一番大変なんです」がメッセージだと答えた。

推論：「今が一番大変なんです」という言葉が、政治へのメッセージというより生活の窮状の告白に近い。No.58 伊藤弘子（受験×食費）と同じ構造だが、西野の場合は医療事務の現場知識がシステム理由への共感を加えている。

FD：西野の高市評価は「今が一番大変だから早く 1%を始めてほしい」という切迫した支持だ。受験費用と食費が重なる時間的な切迫感が、政策評価より生活の訴えとして現れている。

【全体総括】

根拠：「1%でもいいから早く始めてほしい、受験費用と食費が重なって今が一番大変なので」と締めた。「病院のシステム更新の大変さを知っているので、レジの話はよくわかりました」と述べた。

推論：西野を貫く行動原理は「医療事務でのシステム経験からレジシステムに即共感し、受験費用と食費が重なる今この瞬間の切実さで早期実現を求める」だ。時間的切迫感が評価の全体を支配している。

FD：西野美智恵を特徴づけるのは「医療事務でのシステム更新経験からレジシステム理由に即納得し、上の子の大学受験費用と食費が重なる今が一番大変だと訴える 47 歳医療事務パート」だ。「受験費用と食費が重なって今が一番大変なんです」という言葉に、政策評価ではなく生活の切実さがそのまま現れている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

西野美智恵：医療事務をパートでやっています。夫が会社員で子どもが 18 歳と 15 歳います。上の子が大学受験を控えていて、受験費用や塾代でお金がかかっています。毎月のやりくりが大変ですね。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

西野美智恵：聞いたことはあります。食べ物の税金が変わるかもしれないという話ですよね。

M：知っていることを教えてください。

西野美智恵：高市総理がゼロにするとおっしゃっていたのが、1%案になってきているということですね。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

西野美智恵：子どもが二人いて食費は月 7～8 万円はかかっています。受験費用も重なっているので毎月大変です。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

西野美智恵：嬉しいです。少しでも食費が下がれば助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

西野美智恵：ゼロが良かったですが、1%でも下がれば助かります。

M：なぜそう思いますか？

西野美智恵：上の子の受験費用と食費が重なって大変なので、少しでも食費が下がれば受験費用に回せます。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

西野美智恵：覚えています。ゼロと聞いた時は「本当に？」と思って期待しました。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

西野美智恵：少し残念でした。ゼロになってほしかったので。でも 1%でも下がれば助かります。

M：1%になったとしたら評価しますか？

西野美智恵：評価します。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

西野美智恵：知りたいです。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

西野美智恵：知らないです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

西野美智恵：スーパーのレジのシステムの問題なんですね。医療事務をやっているので、病院のシステムが変わるたびに覚え直しが大変というのはよくわかります。医療の電子カルテや請求システムも定期的に更新があって、そのたびに研修があります。全国のスーパーを一斉に変えれば確かに大変ですね。1%で半年早く始まるなら、その方が助かります。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

西野美智恵：はい、早く始まってほしいです。受験費用がかかっている今が一番大変なので。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

西野美智恵：早く決めてほしいです。受験が近いので。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

西野美智恵：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。医療事務をやっているので、医療は消費税が非課税ですが、医療機器や材料の仕入れには消費税がかかるという仕組みは現場で見えています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

西野美智恵：子どもが二人で食費は月 7～8 万円です。上の子の受験費用と重なっているのも本当に毎月大変です。消費税が 1%でも下がれば年間で 1 万円近く違ってくるので、助かります。

M：その情報はどこから？

西野美智恵：自分で計算しました。毎月の食費を把握しているので、1%の違いがどれくらいになるかはすぐわかります。

M：何か実感として感じているものはありますか？

西野美智恵：物価上昇はすごく実感しています。同じものを買っても前より高くなっています。受験費用も重なっているのも本当に大変です。

M：それについてはどう思いますか？

西野美智恵：消費税が少しでも下がれば助かります。受験費用と食費が重なっている今が一番大変な時期なので、少しでも食費が安くなれば受験費用に回せます。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

西野美智恵：就任前はあまり知らなかったですが、食料品の消費税ゼロの公約を聞いて「この人は庶民の生活を考えてくれている」と思いました。1%案になったのは残念ですが、理由があるならわかりました。

M：医療事務のお仕事をされているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

西野美智恵：医療費の負担が気になります。医療事務の現場で患者さんの医療費の支払いを見てみると、高齢化で医療費負担が増えているのを感じます。食料品消費税が下がることは嬉しいですが、医療の方の費用も負担が増えないようにしてほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

西野美智恵：良い方向だと思います。今日のシステムの話聞いて、1%案の理由はわかりました。早く始めてほしいです。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

西野美智恵：「食料品の1%案は助かります。早く始めてください。受験費用と食費が重なって今が一番大変なんです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

西野美智恵：上の子の受験が近くて食費と受験費用が重なっているの、少しでも早く食費が下がってほしいです。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

西野美智恵：します。夫も「食費が下がれば少し楽になるね」と言っていました。受験費用で家計が大変なので、少しの変化でも助かります。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

西野美智恵：「1%でもいいから早く始めてほしい、受験費用と食費が重なって今が一番大変なので」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

西野美智恵：病院のシステム更新の大変さを知っているので、レジの話はよくわかりました。1%で半年早く始まるなら絶対早い方がいいです。今が一番お金がかかる時期なので。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

西野美智恵：今日の話で1%案の理由がわかって納得しました。受験費用がかかっている今、食費が少しでも下がれば本当に助かります。早く決まってほしいです。

M：ありがとうございました。

No.75 「育休復帰でバタバタでも食費は毎日のこと、1%で半年早く始まるならその方がいい」――1歳の子を抱える33歳デザイナー

対象者プロフィール

氏名	梅沢 のぞみ
居住地	神奈川県藤沢市
年齢・性別	33歳・女性
職業	会社員（正職員・デザイン）
家族構成	夫（会社員）・子1人（1歳）
政治関心/知識	低/低

3分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「デザインの仕事でシステムの実装に時間がかかるのはわかるので」と述べ、レジシステム説明に即共感を示した。「子どもが小さい今が一番お金がかかる時期なので」と、早期実現への賛成を生活の切実さで語った。

推論：デザイナーとしてのシステム実装経験がレジシステムへの共感を生んでいる。育休復帰直後という時間軸が「今が一番お金がかかる」という切実さを生んでいる。

FD：梅沢にとって消費税1%案への賛成は、デザイン職でのシステム実装経験からレジシステム理由に即納得し、1歳の子を抱えた育休復帰直後という「今が一番大変」な時期の切実さから来ている。政治への関心は低いが生活への実感は高い。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「育休中に家計管理をするようになって食費を意識するようになりました」と述べた。「子どもの食事に使うものだから安全で栄養があるものを選びたいけど、価格も気になります」と応じた。

推論：育休前は意識していなかった食費管理が、育休中の収入減で習慣化した。子どもの食事への「安全・栄養」と「価格」という二つの要求が並立しており、食費節約を子どもの食事の質向上に使いたいという動機が見えている。

FD：梅沢における消費税は「育休中に初めて意識した家計管理の課題」として位置づけられている。消費税の仕組みへの知識は限定的だが、食費の変化は家計管理の実践から即座に理解できる感度を持つ。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「子育て中の立場を考えてくれているのかな」と就任時に思ったと述べ、「保育園の整備も一緒に頑張ってもらいたいです」をメッセージに加えた。

推論：食料品消費税と保育園整備という二つの要求が並立している。消費税への賛成は子育て支援政策の一部として位置づけられており、育休復帰での保育園問題が直近の最大課題として出てきた。

FD：梅沢の高市評価は「食料品 1%案は助かる、保育園整備も頑張ってもらいたい」という子育て支援全体への期待として現れている。消費税より保育園の方が直近の関心事として先に出てくるところに、育休復帰直後の生活の切迫感が凝縮されている。

【全体総括】

根拠：「育休復帰でバタバタだけど、食費は毎日のことだから 1%でも下がるなら助かる」と締めた。「デザインの仕事でシステムの実装に時間がかかるのはわかるので」と述べた。

推論：梅沢を貫く行動原理は「育休復帰直後の忙しさの中でも食費は毎日の現実として意識しており、デザイン職での経験で 1%案の技術的理由に即納得し、早期実現を求める」だ。政治への関心は低い、生活への実感と職業的な理解力で評価が形成されている。

FD：梅沢のぞみを特徴づけるのは「育休中に初めて食費管理に目覚め、デザイン職でのシステム実装経験からレジシステム理由に即納得し、1 歳の子を抱えた今が一番大変な時期だから早く始めてほしいと訴える 33 歳」だ。「育休復帰でバタバタだけど食費は毎日のこと」という言葉に、政治への関心より日々の生活の実感が政策評価の基準になっている姿が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

梅沢のぞみ：育休から復帰したばかりで、まだバタバタしています。子どもが 1 歳で保育園に入って 2 ヶ月くらいです。仕事もデザインの仕事をしていますが、育休中の変化についていくのが大変で。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

梅沢のぞみ：なんとなくは知っています。高市総理が食べ物の税金を安くするって言っていたんですよね。でも詳しくは追えていないです。

M：知っていることを教えてください。

梅沢のぞみ：食料品の消費税をゼロにするって公約があったんですよね？最近 1%案とかいう話になっているのは見た気がします。ニュースをゆっくり読む時間がないので。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

梅沢のぞみ：子どもが小さいので離乳食とか色々買っていますが、食費は月 6〜7 万円くらいはかかっています。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

梅沢のぞみ：ちょっと嬉しいですね。食費は毎日のことなので、少し下がるだけでも家計的には違います。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

梅沢のぞみ：いいと思います。ゼロじゃなくても 1%でも下がるなら助かります。

M：なぜそう思いますか？

梅沢のぞみ：子どもが小さくてこれから食費も増えていきますし、育休中は収入が減っていたので家計をやりくりしていたので、少しでも下がれば助かります。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

梅沢のぞみ：覚えています。「食べ物の税金をゼロにする」って聞いた時は「本当にできるの？」と思いました。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

梅沢のぞみ：「やっぱりね」という感じです。ゼロはさすがに難しいんだろうなと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

梅沢のぞみ：評価します。ゼロより少ないけど、下がることには違いないので。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

梅沢のぞみ：知りたいです。なんで急に 1%になったのかなと思っていました。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

梅沢のぞみ：知らないです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

梅沢のぞみ：ああ、レジのシステムを変えなきゃいけないんですね。私はデザインの仕事で Web やアプリのデザインをしているんですが、実装まで時間がかかるのはよくわかります。全国のスーパーのレジを一斉に変えとなれば確かに大変ですね。1%で半年早く始まるなら、そっちの方がいいですね。子どもが小さい今が一番お金がかかる時期なので。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

梅沢のぞみ：はい、早く始まる方が助かります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

梅沢のぞみ：早く決めてほしいです。育休から復帰してバタバタしている中でも、食費は毎日のことなので。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

梅沢のぞみ：食料品が8%で他が10%というのは知っています。消費税が何に使われているかは、社会保障のためだと思っていますが詳しくはわかりません。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

梅沢のぞみ：育休中は収入が減っていたので食費の節約を意識していました。今は仕事に戻ったのでそこまで切り詰めてはいませんが、子どもが大きくなるにつれてもっとかかるようになると思うので、食費が下がるのはありがたいです。

M：その情報はどこから？

梅沢のぞみ：スーパーで買い物した時のレシートを見て大体把握しています。育休中に家計管理をするようになって食費を意識するようになりました。

M：何か実感として感じているものはありますか？

梅沢のぞみ：物価が上がっているのは感じています。離乳食用の野菜とか、前より高くなっている気がします。

M：それについてはどう思いますか？

梅沢のぞみ：子どもの食事に使うものだから安全で栄養があるものを選びたいけど、価格も気になります。食費が少し下がれば子どもの食事に回せるので助かります。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

梅沢のぞみ：就任前はあまり知らなかったです。食料品消費税ゼロの公約を聞いて「子育て中の立場を考えてくれているのかな」と思いました。1%案になったのは残念ですが、今日の理由を聞いてわかりました。

M：デザインのお仕事をされているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

梅沢のぞみ：働く女性の支援とか保育園の整備が気になります。育休復帰してみて、保育園に入れるのが大変だったので。食料品の消費税とは別ですが、産後・育休中の制度も整えてほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

梅沢のぞみ：方向性は良いと思います。子育て中の立場からは食費が少しでも下がれば助かりますし、今日の1%案の理由もわかりました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

梅沢のぞみ：「食料品の1%案、早く始めてください。子どもが小さい今が一番お金がかかる時期なので。保育園の整備も一緒に頑張してほしいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

梅沢のぞみ：育休から復帰してバタバタしながら子育てと仕事を両立しているので、生活費が少しでも下がれば助かります。保育園の整備も子育て家庭には大事な問題なので。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

梅沢のぞみ：します。夫は「食費が少しでも下がれば助かるね」と言っていました。二人ともニュースをゆっくり見る時間がないので、あまり深く話はできていないですが。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

梅沢のぞみ：「育休復帰でバタバタだけど、食費は毎日のことだから1%でも下がるなら助かる」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

梅沢のぞみ：デザインの仕事でシステムの実装に時間がかかるのはわかるので、1%で半年早く始まるならその方がいいです。子どもが小さい今が一番食費も気になる時期なので。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

梅沢のぞみ：今日の話で1%案の理由がわかりました。育休中に家計管理を意識するようになったので、食費が少しでも下がれば助かります。早く決まってほしいです。

M：ありがとうございました。

No.76 「レジのシステム問題なら納得、1%で半年早く食費が下がる方が助かる——習い事代がかかる子2人の40歳」

対象者プロフィール

氏名	平野 恵理
居住地	神奈川県川崎市
年齢・性別	40歳・女性
職業	会計士（パート）
家族構成	夫（会社員）・子2人（10歳・7歳）
政治関心/知識	高／高

3 ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「家計として、1%で半年早く始まる方が助かります」と述べた。「ゼロへの移行には様々な実務的なハードルがあることは想像できました」とも語り、システムの説明に「実務的な観点から言うと確かに」と受け入れた。

推論：会計士として実務的なハードルへの想像力があったため、システム問題の説明が既存の納得感と合致した。「家計として」という留保を繰り返すことで、専門家目線と生活者目線を自分なりに区別している。

FD：平野にとって消費税1%案への賛成は、会計士として実務的なハードルを想像しており、システム問題という説明が既存の納得感に合致した上での、家計としての支持だ。専門知識があることがゼロへの期待を早期に現実的に修正しており、1%案を穏やかに受け入れた。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「月8～9万円の食費で、1%になれば年間6～7万円変わる。子どもの習い事代が増えてきているので、食費が少しでも下がれば助かります」と述べた。

推論：消費税の仕組みを把握しており、節約額の計算も正確だ。しかし語り口はあくまで「家計として」であり、専門的な分析よりも食費節約の使い道（習い事代）という家計の視点で語っている。

FD：平野における消費税は「習い事代という新しい出費が増えてきた子育て家庭として、食費節約を活動費への振り替えとして語る家計課題」だ。知識の豊富さが主張の根拠にはなっているが、語り口は生活者の視点に収まっている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「10 歳の上の子が中学受験を考えているので、これからの教育費が心配です。食費の消費税が下がるのは助かりますが、教育費の方が今後の家計では大きな課題になりそうです」と述べた。

推論：高市総理への評価は食料品消費税の方向性への受け入れだが、中学受験というタイムラインが見えている教育費の方が「今後の大きな課題」として前景化している。政治への関心が高い分、政策全体への視野を持ちながら家計課題として語っている。

FD：平野の高市評価は「食費が下がるのは家計として助かる、でも中学受験以降の教育費の方が今後は大きな課題」という習い事・受験期の子育て家庭の母親としての正直な優先順位だ。消費税節約が「今必要な助け」として相対的に位置づけられている。

【全体総括】

根拠：「システムの問題なら仕方ない、家計として 1%で半年早く始まる方が、習い事代がかかってきた子育て家庭には助かる」と締めた。「10 歳と 7 歳の子どもの習い事代が増えてきています」という言葉が動機の背景を示している。

推論：平野を貫く行動原理は「会計士として実務的な納得があった上で、習い事代が増えてきた 10 歳・7 歳の子育て家庭として、食費節約を習い事費用への振り替えとして実利的に歓迎し、ゼロより半年早い 1%を支持する」だ。

FD：平野恵理を特徴づけるのは「会計士として実務的なハードルを想像していたためシステム問題の説明に既存の納得感が合致し、家計としては 10 歳・7 歳の習い事代という具体的な使い道を持ってゼロより半年早い 1%を支持した 40 歳」だ。「家計として」という言葉の繰り返しに、専門知識と生活者視点を自分なりに区別しようとする姿勢が出ている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

平野恵理：会計士の事務所でパートをしています。夫と子どもが二人、10 歳と 7 歳です。川崎市に住んでいます。子どもの習い事が増えてきて出費が多くなっています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

平野恵理：知っています。高市総理が食料品消費税をゼロにすると公約していて、最近 1%案が浮上しているという話ですよ。税率の問題としては、以前から議論されていた話ではあります。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

平野恵理：家計として、食費は月 8～9 万円くらいかかっています。10 歳と 7 歳の子どもがいて食費が増えてきています。物価上昇もあって、同じものが前より高くなっているのを感じます。消費税が下がれば助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

平野恵理：家計として助かります。8%から 1%になれば月 5,000～6,000 円くらい変わります。子どもの習い事代に回せますし。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

平野恵理：覚えています。公約としてゼロを打ち出していましたね。ゼロになったら良かったとは思いますが。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

平野恵理：驚かなかったです。ゼロへの移行には様々な実務的なハードルがあることは想像できましたので、何らかの修正があるとは思っていました。

M：1%になったとしたら評価しますか？

平野恵理：家計としては評価します。8%より助かることは間違いないです。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

平野恵理：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

平野恵理：そういう理由なんですね。実務的な観点から言うと、確かに全国の小売店のレジシステムを一斉に変えるのは相当な作業になりますね。家計として考えると、1%で半年早く始まる方が助かります。10 歳と 7 歳の子どもがいる今の時期に早く始まってほしいので。

M：まずご家族の食費という立場で聞かせていただけますか。半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

平野恵理：そうですね。家計として早い方が助かります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

平野恵理：早く確定してほしいです。家計の計画が立てやすくなるので。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

平野恵理：消費税の仕組みは一通り把握しています。食料品が軽減税率の8%で、標準税率が10%というのを知っています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

平野恵理：月8～9万円の食費で、1%になれば年間で6～7万円変わります。子どもの習い事代が増えてきているので、食費が少しでも下がれば家計として助かります。

M：何か実感として感じているものはありますか？

平野恵理：物価が上がっているのは実感しています。スーパーで同じものが前より高くなっているのが家計担当として気になります。食費の消費税が下がれば、その分を子どもの活動費に回せます。

M：それについてはどう思いますか？

平野恵理：家計として食費が少し下がれば助かります。子どもの習い事の費用が今の家計で増えてきているので。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

平野恵理：政策面では積極的な印象があります。食料品消費税の話は家計として良い方向だと思います。

M：10歳と7歳のお子さんを育てる母親という立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

平野恵理：子どもの教育費がこれからどうなるかは気になります。10歳の上の子が中学受験を考えているので、これからの教育費が心配です。食費の消費税が下がるのは助かりますが、教育費の方が今後の家計では大きな課題になりそうです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

平野恵理：家計として方向性は良いと思います。今日の話でシステムの問題だとわかって、1%案の理由が理解できました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

平野恵理：「食費が少し下がれば家計として助かります。1%でも早く始めてください。子どもの教育費の支援も合わせてお願いしたいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

平野恵理：10歳と7歳の子どもを育てていて、教育費がこれからかかってくる時期です。食費が少しでも下がれば、その分を子どものために使えます。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

平野恵理：します。夫も「食費が下がれば助かる」と言っています。家計については二人で話し合っています。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

平野恵理：「システムの問題なら仕方ない、家計として 1%で半年早く始まる方が、習い事代がかかってきた子育て家庭には助かる」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

平野恵理：10 歳と 7 歳の子どもの習い事代が増えてきています。システムの問題で半年早く始まるなら、1%の方が今の家計には良いです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

平野恵理：今日の話でシステムの問題だとわかって良かったです。早く確定してほしいです。

M：ありがとうございました。

No.77 「1%で半年早く始まるなら早い方がいい、老後の年金と医療の安心も忘れずに」――夫の定年を控える 48 歳専業主婦

対象者プロフィール

氏名	川原 幸
居住地	神奈川県横浜市
年齢・性別	48 歳・女性
職業	専業主婦
家族構成	夫（会社管理職）・子 2 人（20 歳・18 歳）
政治関心/知識	低/低

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「軽減税率の時もスーパーで混乱していたのを見ていたので、なるほどと思います」と述べ、レジシステム説明に共感。「夫の定年が近いので、早く確定してほしいです」と応じた。

推論：スーパーへの買い物という日常的な観察から軽減税率時のレジ混乱を直接見ており、レジシステムの大変さを生活感覚として持っている。老後の計画という観点から「早く確定してほしい」という要求が出ており、食費節約より早期確定の方が動機として強い。

FD：川原にとって消費税 1%案への賛成は、スーパーでの軽減税率導入時の混乱を目撃した経験からレジシステム理由に納得し、夫の定年を控えた老後計画の観点から「早く確定してほしい」という要求として現れている。食費の切迫感より老後の先見通しが評価の主軸になっている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「老後の生活費を考えると、少しでも節約できれば助かります」と述べ、食費節約を老後の備えとして位置づけた。

推論：子どもの独立によって食費の切迫感が薄れた後、老後の年金・医療費への不安が主な関心事として浮上している。食費節約は「老後の備えに回せる」という文脈に置かれており、生活費節約の動機自体が老後志向になっている。

FD：川原における消費税は「老後の備えに回せる節約手段」として位置づけられている。子育て期の切迫感から老後の計画期への移行が、消費税評価の枠組みを食費節約から老後の安心に変換している。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「年金と医療費の問題も、老後を控えている立場として安心できるようにしてほしいです」をメッセージとして述べた。

推論：食料品消費税への賛成と老後の年金・医療への要求が並立している。「食費が下がれば老後の備えに回せる」という構造で、消費税と老後の安心が接続されている。

FD：川原の高市評価は「1%案は良い、老後の年金と医療も安心させて」という並列要求だ。食料品消費税への関心は老後の安心という最大の関心事の一部として位置づけられており、消費税単独では評価が完結しない。

【全体総括】

根拠：「老後の年金と医療が一番大事」という言葉が繰り返し出てきた。スーパーの買い物という日常的な観察からレジシステムに共感し、「早く確定してほしい」という要求が一貫して出てくる。

推論：川原を貫く行動原理は「子育て期の切迫感から解放された後、夫の定年を前に老後の安心を最大の関心事とし、食費節約は老後の備えの一部として評価する」だ。食費より先見通しの良さが評価の基準になっている。

FD：川原幸を特徴づけるのは「子どもが独立して食費の切迫感が薄れ、夫の定年を控えた老後計画の観点から消費税 1%案を評価する 48 歳専業主婦」だ。「1%案の理由はわかった、でも老後の年金と医療が一番大事」という言葉に、食費より老後の安心が評価の全体を覆っている姿が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話いただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

川原幸：専業主婦をしています。夫が会社で管理職で、子どもが二人いますが二人とも独立して――上は就職して、下は大学生なので家を出ています。夫婦二人の生活になって、だいぶ静かになりました。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

川原幸：なんとなくは知っています。食べ物の消費税を変えるという話ですね。

M：知っていることを教えてください。

川原幸：高市総理がゼロにするって言っていて、最近は 1%案という話が出ているということですかね。あまり詳しくは追っていないです。夫の方が詳しいと思います。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

川原幸：子どもが独立してから二人分になったので、食費は月 4 万円くらいになりました。子どもが家にいた頃は 7～8 万円くらいかかっていたので、だいぶ楽になりました。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

川原幸：下がれば助かりますけど、今はそこまで食費に切迫感はないです。老後の備えの方が今は気になっています。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

川原幸：悪くはないと思います。少し下がれば老後の備えに少し回せますし。

M：なぜそう思いますか？

川原幸：夫がもうすぐ定年になるので、老後の生活費を少しでも節約できればと思っています。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

川原幸：そういえばそんな話がありましたね。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

川原幸：「やっぱりそうなるよね」という感じです。ゼロにするのは難しいんだろうなと。

M：1%になったとしたら評価しますか？

川原幸：評価はします。下がることはいいことですから。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

川原幸：知りたいです。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

川原幸：知らないです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

川原幸：スーパーのレジのシステムが大変なんですね。軽減税率の時もスーパーで混乱していたのを見ていたので、なるほどと思います。1%で半年早くなるなら、早い方がいいですよ。夫の定年が近いので、早く確定してほしいです。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

川原幸：そうですね。早い方がいいです。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

川原幸：早く決めてほしいです。先のことが見通せないとな後の計画も立てにくいので。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

川原幸：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。消費税が社会保障に使われているというの。でも詳しい仕組みは夫の方が詳しいと思います。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

川原幸：子どもが独立してから食費は随分減りました。今は老後の生活費の方が気になっています。夫がもうすぐ定年なので、年金でどれだけ生活できるかを考えています。食費が少し下がれば老後の備えに回せますし、助かります。

M：その情報はどこから？

川原幸：スーパーで買い物して実感しています。テレビのニュースも見ています。

M：何か実感として感じているものはありますか？

川原幸：物価が上がっているのはスーパーで感じます。同じものが前より高くなっているの、少しでも食費が下がれば助かります。

M：それについてはどう思いますか？

川原幸：老後の生活費を考えると、少しでも節約できれば助かります。今は子どもの教育費もかからなくなったので、食費の節約を老後の備えに回したいと思っています。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

川原幸：就任前はあまり知らなかったですが、食料品の消費税ゼロという公約を聞いて「庶民の生活を考えてくれているのかな」と思いました。1%案になったのは少し残念ですが、理由があればわかります。

M：ご主人の定年が近いお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

川原幸：年金の問題が一番気になります。夫が定年後にどれだけ年金をもらえるか、医療費がどうなるか。食料品の消費税が下がることは嬉しいですが、年金と医療の方が老後の生活には大事です。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

川原幸：方向性は良いと思います。今日の話で 1%案の理由もわかりました。早く始めてほしいです、年金と医療の問題も合わせて安心させてほしいです。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

川原幸：「食料品の 1%案は早く始めてください。年金と医療費の問題も、老後を控えている立場として安心できるようにしてほしいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

川原幸：夫の定年が近くて老後のことを考えるようになったので、食費が少しでも下がれば老後の備えに回せますし、年金と医療の問題も解決してほしいです。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

川原幸：します。夫は「食費が下がれば助かるね」と言っていました。年金の話は夫の方が詳しくて、色々説明してくれます。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

川原幸：「1%案の理由はわかった、早く始めてほしい——でも老後の年金と医療が一番大事」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

川原幸：軽減税率の時のスーパーの混乱を見ていたので、レジシステムの話はなるほどと思いました。早く確定してほしいですし、老後の生活のことは食費より年金の方が心配です。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

川原幸：今日の話で 1%案の理由がわかって良かったです。夫の定年が近くなってきたので、政策が早く確定して老後の計画が立てやすくなるといいと思っています。

M：ありがとうございました。

No.78 「家計がきつい今の時期にゼロより 1%で半年早く食費が下がる方が助かる——習い事が増えてきた子 2 人持つ 36 歳」

対象者プロフィール

氏名	大森 由希
居住地	神奈川県相模原市
年齢・性別	36 歳・女性
職業	パート（学童保育）
家族構成	夫（会社員）・子 2 人（8 歳・5 歳）
政治関心/知識	中／低

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「8 歳と 5 歳の子どもがいる今の時期に早く始まってほしいので、1%で半年早く始まる方が助かります」と述べた。「月 5,000 円くらい変わる。その分を子どもの習い事代とか学用品に使えます」と語った。

推論：8 歳・5 歳という習い事が始まる時期の子どもの存在と、家計がきつい今の状況が「今の時期に早く」という動機の根拠になっている。食費節約の使い道が「習い事代・学用品」という具体的な出費として示されており、ゼロより半年早い 1%を実利から判断した。

FD：大森にとって消費税 1%案への賛成は、習い事代が増えてきた 8 歳・5 歳の子育て家庭として今すぐ食費が少し下がってほしいという切実さから来ている。「家計がきつい時期」という言葉が繰り返し出てくることに、世帯年収約 430 万という家計の逼迫感が示されている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「月 7～8 万円の食費で、1%になれば年間 5～6 万円くらい違う。家計がきつい時期なので、それだけでも助かります」と述べた。職場の同僚も「食費が下がれば助かる」という共感を語った。

推論：節約額の絶対値よりも「家計がきつい時期」という状況が評価の根拠になっている。職場の同僚との共感が「みんなそう思っている」という感覚を補強している。

FD：大森における消費税は「家計がきつい今の時期の、積み重なれば意味のある助け」として語られる。「夫の収入に頼っている部分が多い」という言葉に、学童保育パートという収入の補完的な位置づけが示されている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「学童保育の費用とか、子どもが小学校に上がってからの出費の方が今は実感としてある。食費が少し下がるのはありがたいですが、子育て支援全体が充実してほしい」と述べた。

推論：学童保育でパートとして働いている立場から、学童保育の費用という具体的な今の生活課題が出てきた。消費税への賛成が「子育て支援全体」という要求の中に位置づけられており、今の生活実感に根ざした評価になっている。

FD：大森の高市評価は「食費が下がるのは助かる、子育て支援全体も充実してほしい」という学童保育パートとして子育ての現場を知る母親の正直な要求だ。消費税節約が子育て支援という大きな課題の一部として語られている。

【全体総括】

根拠：「家計がきつい今の時期に、ゼロより 1%で半年早く食費が下がる方が助かる」と締めた。「8 歳と 5 歳の子どもの習い事代がかかってきています」という言葉が動機の背景を示している。

推論：大森を貫く行動原理は「家計がきつい今の時期に習い事代が増えてきた 8 歳・5 歳の子育て家庭として、食費節約を習い事費用への振り替えとして語り、ゼロより半年早い 1%を今の生活に合った選択として支持する」だ。

FD：大森由希を特徴づけるのは「学童保育パートで家計を補いながら、8 歳・5 歳の習い事が増えてきた子育て家庭として、家計のきつさを前置きに食費節約を語り、ゼロより半年早い 1%を今の生活の切実な選択として支持した 36 歳」だ。「家計がきつい時期」という言葉の繰り返しに、消費税節約への動機の根源が出ている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

大森由希：学童保育でパートをしています。夫と子どもが二人、8 歳と 5 歳です。相模原市に住んでいます。子どもが二人いて、上の子が小学 2 年生になって習い事が増えてきました。家計がなかなか大変です。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

大森由希：知っています。食べ物の消費税がゼロになるとか、最近は 1%になるという話ですね。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

大森由希：食費は月 7～8 万円くらいかかっています。8 歳と 5 歳の子どもがいて、食費が増えています。物価も上がっているので家計が厳しいです。消費税が下がれば助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

大森由希：助かります。8%より低い方が助かります。月 7～8 万円の食費で 8%から 1%になれば月 5,000 円くらい変わります。その分を子どもの習い事代とか学用品に使えます。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

大森由希：なんとなく覚えています。ゼロになったら良かったなと思います。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

大森由希：少し残念でしたが、驚かなかったです。何か理由があるんだろうと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

大森由希：評価します。8%より全然いいです。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

大森由希：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

大森由希：そういう理由なんですね。全国のスーパーのレジを変えるのは確かに大変そうです。8 歳と 5 歳の子どもがいる今の時期に早く始まってほしいので、1%で半年早く始まる方が助かります。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

大森由希：そうですね。早い方がいいです。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

大森由希：早く決まってほしいです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

大森由希：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。レシートを見れば書いてあるので。あまり詳しくはないですが。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

大森由希：月 7～8 万円かかっています。1%になれば年間で 5～6 万円くらい違いますよね。家計がきつい時期なので、それだけでも助かります。

M：その情報はどこから？

大森由希：ニュースで見ました。夫や職場の同僚とも話しています。みんな同じように「食費が下がれば助かる」と言っています。

M：何か実感として感じているものはありますか？

大森由希：物価が上がっているのは実感しています。スーパーで同じものが前より高くなっているのがわかります。子どもたちの食欲が増えてきているので、食費全体が上がっている感じがします。

M：それについてはどう思いますか？

大森由希：消費税が少しでも下がれば助かります。夫の収入に頼っている部分が多いので、食費が下がれば少し余裕ができます。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

大森由希：就任してから「女性の総理が生まれた」という印象でした。食料品の消費税の話は家計として助かります。

M：8 歳と 5 歳のお子さんを育てながら学童保育でパートをされている母親という立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

大森由希：子育て支援がどうなるかは気になります。学童保育の費用とか、子どもが小学校に上がってからの出費の方が今は実感としてあります。食費が少し下がるのはありがたいですが、子育て支援全体が充実してほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

大森由希：方向性は良いと思います。今日の話でシステムの問題だとわかって、1%案の理由が理解できました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

大森由希：「食費が少し下がれば本当に助かります。1%でも早く始めてください。子育て支援も充実してほしいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

大森由希：家計がきつくて、少しでも食費が下がれば助かります。子育て支援が充実すれば、もう少し余裕を持って子どもを育てられます。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

大森由希：します。夫も「食費が下がれば助かる」と言っています。家計のことはよく二人で話し合います。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

大森由希：「家計がきつい今の時期に、ゼロより 1%で半年早く食費が下がる方が助かる」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

大森由希：8 歳と 5 歳の子どもの習い事代がかかってきています。システムの問題で半年早く始まるなら、1%の方が今の生活には良いです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

大森由希：今日の話でシステムの問題だとわかって良かったです。早く確定してほしいです。

M：ありがとうございました。

No.79 「自分への影響は小さいが、1%で半年早く困っている家庭に届くなら良い判断」——消費税の逆進性を見る 43 歳総合職

対象者プロフィール

氏名	野口 芳江
居住地	神奈川県横浜市
年齢・性別	43 歳・女性
職業	会社員（正職員・総合職）
家族構成	夫（会社員）・子 1 人（11 歳）
政治関心/知識	高／中

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「私の家計への影響より、低収入の家庭やひとり親の家庭には大きな意味があると思いました」と述べた。「恩恵が届くべき人に早く届く方が意味があります」と応じた。

推論：消費税 1%案への賛成の根拠が、自家の節約ではなく低収入層への政策効果として設定されている。レジシステム説明を「低収入層への恩恵が半年早く届く」という観点で評価しており、自分への影響より社会的効果が評価の基準になっている。

FD：野口にとって消費税 1%案への賛成は、自家の食費節約ではなく食費の割合が高い低収入層への早期恩恵という社会的効果への評価から来ている。高収入という自家の状況が、評価の視点を個人から社会へシフトさせている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「消費税は所得の低い家庭ほど負担率が高くなる逆進性があるので、食料品の税率を下げることは社会的な意義がある」と述べた。

推論：消費税の逆進性という政策的な問題設定が即座に出てきており、ニュースや統計を日常的に追っている政治関心の高さが反映されている。自家の消費税負担より逆進性という構造的問題が先に関心事として出てくる。

FD：野口における消費税は「逆進性のある制度の不公平を緩和する手段」として位置づけられている。自家の食費節約より社会的な公平性という評価軸が先に来る構造が、消費税議論全体を通じて一貫している。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「ひとり親家庭や非正規の女性の状況はかなり厳しい。消費税の軽減だけでなく、そういった構造的な問題も合わせて取り組んでほしい」と述べた。

推論：消費税 1%案への賛成は「第一歩」として位置づけられており、単独の政策評価ではなくひとり親・非正規支援という構造的な問題解決の一部として捉えている。自分が恵まれた立場にいるという認識が、政策評価を社会的公平性への関心に向けている。

FD：野口の高市評価は「1%案は方向性として良いが、構造的な不公平にも取り組んでほしい」という条件付き評価だ。消費税軽減への賛成と、ひとり親・非正規支援への要求が一貫した「社会的公平性」という軸で結びついている。

【全体総括】

根拠：「本当に困っている家庭に早く届けてほしい」が繰り返し出てくる。自家への影響は限定的だが、社会的効果として評価している。

推論：野口を貫く行動原理は「高収入の立場から自家への影響ではなく低収入層への政策効果という観点で消費税議論を評価し、社会的公平性という軸で賛否を形成する」だ。政治関心が高く消費税の逆進性という知識を持っていることが、評価の視点を個人から社会へシフトさせている。

FD：野口芳江を特徴づけるのは「高収入の共働き家庭として自家の食費への影響は小さいが、消費税の逆進性という社会的問題として食料品 1%案を評価し、低収入層・ひとり親への早期恩恵を求める 43 歳総合職」だ。「自分への影響は少ないが困っている家庭に早く届けてほしい」という言葉に、個人の利益より社会的公平性が評価の軸になっている姿が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

野口芳江：会社員の総合職で働いています。夫も会社員で共働きです。子どもが 11 歳で小学 6 年生で、もうすぐ中学受験があります。仕事と子育てを両立しながら、受験のサポートもしているので忙しいですね。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

野口芳江：知っています。高市総理が食料品の消費税をゼロにするという公約を出して、最近は 1%案になってきているというのも把握しています。

M：知っていることを教えてください。

野口芳江：高市総理の大きな公約の一つとして食料品消費税ゼロを掲げていたんですが、実務的な問題で 1%案が現実的な選択肢として出てきているということですね。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

野口芳江：うちは共働きで収入が多いので、食費で特に困ってはいないです。月 7～8 万円くらいかかっていますが、消費税が 1%変わっても大きな影響はないです。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

野口芳江：自分の家計への影響より、低収入の家庭やひとり親の家庭には大きな意味があると思いました。食料品の消費税が下がれば、食費の割合が高い家庭は助かると思います。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

野口芳江：方向性は良いと思います。私の家計への影響は限定的ですが、食費の負担が重い家庭には意味があると思います。

M：なぜそう思いますか？

野口芳江：食料品は必需品なので、食費の割合が高い低収入の家庭に税の軽減が届くという点で社会的な意味があると思います。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

野口芳江：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

野口芳江：驚かないですね。ゼロにするには実務的な障壁があるだろうと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

野口芳江：評価します。方向性は正しいと思います。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

野口芳江：知りたいです。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

野口芳江：財政的な理由か、実務的な理由かと思っていましたが、具体的には知らないです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

野口芳江：POS システムの改修コストと時間の問題ですね。全国の小売店への普及を考えれば時間がかかるのは当然だと思います。1%で半年早く実現できるなら、食費の負担が重い家庭への恩恵が半年早く届くという意味で良い判断だと思います。私の家計への影響は少ないですが、困っている家庭には一日でも早い方がいい。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

野口芳江：そうです。恩恵が届くべき人に早く届く方が意味があります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

野口芳江：早く決めてほしいですね。政策が確定しないと社会全体が見通せないのです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

野口芳江：軽減税率の仕組みから、消費税の逆進性の問題まで把握しています。消費税は所得の低い家庭ほど負担率が高くなる逆進性があるので、食料品の税率を下げることは社会的な意義があると思っています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

野口芳江：私の家庭は収入が高いので食費の消費税の影響は小さいです。月 7～8 万円の食費で 1%変わっても年間 1 万円以下の差です。でも収入が低い家庭では食費の割合が高くて、同じ 1%でも生活への影響が大きい。

M：その情報はどこから？

野口芳江：ニュースや統計を追っています。社会政策への関心があるので。

M：何か実感として感じているものはありますか？

野口芳江：物価上昇は感じています。同じものが高くなっているのはスーパーでわかります。ただ私の家計では圧迫されているという実感はないです。低収入の方や非正規の方は相当大変だと思います。

M：それについてはどう思いますか？

野口芳江：食料品消費税を下げることは、物価上昇の影響を相対的に大きく受けている低収入層への支援として意義があると思います。社会的な公平性という観点から賛成です。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

野口芳江：就任前から経済政策に積極的という印象でした。食料品消費税ゼロの公約は「大きく出た」と思いましたが、方向性は評価していました。1%案は現実的な修正として理解できます。

M：総合職でお仕事をされているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

野口芳江：ひとり親家庭への支援と女性の就業支援が気になります。私は共働きで収入も高いですが、ひとり親や非正規の女性の状況はかなり厳しい。消費税の軽減だけでなく、そういった構造的な問題も合わせて取り組んでほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

野口芳江：方向性は良いと思います。今日の1%案の理由もわかりました。低収入層への恩恵が半年早く届くという点で評価します。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

野口芳江：「1%案、早く始めてください。困っている家庭に早く届けてほしい。ひとり親家庭や非正規の女性への支援も一緒に進めてほしいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

野口芳江：自分の家計より、本当に困っている家庭への支援が届くことの方が重要だと思っています。消費税の軽減は一步ですが、構造的な支援も必要だと思います。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

野口芳江：します。夫も「方向性は良い」と言っていました。私が逆進性の話をするとう「そういう視点もあるね」と言っていました、二人とも社会政策への関心は高い方です。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

野口芳江：「1%案の理由はわかった、本当に困っている家庭に早く届けてほしい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

野口芳江：POS システムの改修という技術的な理由は納得できます。低収入の家庭に半年でも早く恩恵が届く方が大事だと思うので、1%で早く始まるなら良い判断だと思います。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

野口芳江：消費税の逆進性という観点から、食料品の税率を下げることに賛成です。私の家計への影響は小さいですが、本当に困っている家庭への支援として意義があります。ひとり親家庭や低収入層への支援も合わせて進んでほしいです。

M：ありがとうございました。

No.80 「SNS で見ていた 1%案の理由が今日わかった、IT の仕事でレジシステムに納得できる」——子育てを前に食費を考え始めた 30 歳

対象者プロフィール

氏名	小島 夏子
居住地	神奈川県藤沢市
年齢・性別	30 歳・女性
職業	会社員（IT）
家族構成	夫（会社員）・子なし
政治関心/知識	中／中

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「IT の仕事をしているので、システム改修に時間がかかるのはよくわかります」と述べた。「1%で半年早く始まるなら、そっちの方が合理的ですね」と即座に評価した。

推論：IT エンジニアとしてのシステム改修経験がレジシステム説明への即座の理解を生んでいる。SNS で「1%はなぜ？」という疑問を持っていたが、理由の説明によって疑問が解消され「合理的」という評価に変わった。

FD：小島にとって消費税 1%案への賛成は、IT の仕事でのシステム改修経験からレジシステム理由に即納得し、SNS で疑問に思っていた「なぜ 1%」の答えが得られたことで評価が確定した。生活への切迫感より技術的な合理性が評価の根拠になっている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「将来子どもができれば食費は増えると思っています。今のうちに食費が少し下がれば節約になって、将来の備えに回せます」と述べた。

推論：現在は子どもがいないため食費への切迫感は低いが、将来の子育てを見据えた食費計算が動機として現れている。SNS で物価の話が流れてくる環境が物価上昇への感度を生んでいる。

FD：小島における消費税は「現在より将来の子育てに備えた節約手段」として位置づけられている。今の切迫感より将来設計という観点から食費節約の動機が形成されている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「行政のデジタル化もセットで進めてほしいです」をメッセージに加えた。

推論：消費税 1%案への賛成と行政デジタル化への要求が並立している。IT 業界にすることで消費税への関心がシステム改修という技術的観点に向かい、そこから行政デジタル化という要求が自然に出てくる。

FD：小島の高市評価は「1%案は IT エンジニアとして合理的、行政のデジタル化も一緒に」という技術者的な評価だ。消費税への賛成が技術的な合理性の評価として出てきており、政治への関心より技術的な問題解決への関心が前面に出ている。

【全体総括】

根拠：「SNS での議論より具体的な理由がわかって良かったです」と締めた。「システム改修に時間がかかるのは IT 業界にしているとよくわかります」と述べた。

推論：小島を貫く行動原理は「SNS でふわりと政治情報を追っており、理由が明示されれば技術的な観点から即納得し、将来の子育てを見据えた生活設計として食費節約を評価する」だ。SNS での疑問が対話の中で解消されることが評価の転換点になっている。

FD：小島夏子の特徴づけるのは「SNS で 1%案の理由に疑問を持っていたが、IT エンジニアの立場からレジシステム理由に即納得し、将来の子育てに備えた食費節約として賛成する 30 歳」だ。「SNS での議論より具体的な理由がわかって良かったです」という言葉に、SNS 上の不確かな情報から具体的な根拠への評価の転換が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話いただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

小島夏子：IT 会社で働いています。夫も会社員で共働きです。子どもはまだいないです。藤沢に住んでいて、二人だとそれなりに余裕はあります。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

小島夏子：はい、知っています。SNS で話題になっていたの。高市総理が食料品の消費税をゼロにするって言っていたんですね。

M：知っていることを教えてください。

小島夏子：ゼロという公約があつて、最近は 1%案が出ているということですね。SNS でちょこちょこ見ていました。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

小島夏子：二人だと食費は月 5～6 万円くらいですね。消費税が下がれば少し節約になりますが、今は特に困っているわけではないです。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

小島夏子：良いことだと思いました。食料品の税金が下がるなら節約になりますし。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

小島夏子：ゼロより少ないけど、下がることは良いことだと思います。

M：なぜそう思いますか？

小島夏子：食費は毎月かかるものなので、少し下がれば年間で見ると結構違いますし。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

小島夏子：覚えています。SNS で話題になっていました。「本当にできるの？」という反応が多かった気がします。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

小島夏子：「やっぱりそうなるよね」という感じです。SNS でも「ゼロは無理だったか」という声が多かったのも。

M：1%になったとしたら評価しますか？

小島夏子：評価します。ゼロより少ないけど、下がることは良いことなので。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

小島夏子：知りたいです。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

小島夏子：知らないです。SNS でも「なんで 1%？」という声は見ましたが、理由まではわからなかったです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

小島夏子：システムの問題なんですね。IT の仕事をしているので、システム改修に時間がかかるのはよくわかります。全国のスーパーのレジシステムを一斉に変えられれば、半年から 1 年にかかるのは理解できます。1%で半年早く始まるなら、そっちの方が合理的ですね。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

小島夏子：そうですね。早く始まる方が良いと思います。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

小島夏子：早く決めてほしいですね。決まれば食費の見通しも立てやすいので。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

小島夏子：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。消費税が何に使われているかは大体知っていますが、詳しい仕組みまではわかりません。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

小島夏子：今は子どもがいないので食費は二人分で済んでいます。将来子どもができれば増えるかなと思っています。今のうちに食費が少し下がれば節約になって、将来の備えに回せます。

M：その情報はどこから？

小島夏子：SNS とスーパーの買い物で把握しています。

M：何か実感として感じているものはありますか？

小島夏子：物価が上がっているのはスーパーで感じます。同じものが前より高くなっています。SNS でも物価の話がよく出ます。

M：それについてはどう思いますか？

小島夏子：消費税が少しでも下がれば助かります。物価が上がっているの、食費が下がれば少し楽になります。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

小島夏子：就任前はあまり知らなかったですが、食料品消費税ゼロの公約を聞いて「良いことを言うな」と思いました。1%案になったのは残念ですが、今日の理由を聞いてわかりました。

M：IT のお仕事をされているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

小島夏子：行政のデジタル化が気になります。IT 業界にいと行政のデジタル化が進んでいると感じることもありますが、まだ改善の余地があると思います。消費税の話とは別ですが、デジタル化と効率化を合わせて進めてほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

小島夏子：良い方向だと思います。今日のシステムの話聞いて、1%案の理由もわかりました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

小島夏子：「食料品の 1%案、早く始めてください。行政のデジタル化もセットで進めてほしいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

小島夏子：食費が下がれば助かりますし、IT 業界にいたのでデジタル化の効率化も大事だと思っています。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

小島夏子：します。夫は「食費が下がれば助かるね」と言っていました。あと SNS で見た情報を二人で話したりしています。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

小島夏子：「1%案の理由は IT の仕事でよくわかった、SNS でモヤモヤしていたがスッキリした」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

小島夏子：システム改修に時間がかかるのは IT 業界にいるとよくわかります。1%で半年早く始まるなら合理的な判断だと思います。食費が下がれば将来の備えにも回せますし。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

小島夏子：今日の話で 1%案の理由がわかりました。SNS での議論より具体的な理由がわかって良かったです。早く決まってほしいですね。

M：ありがとうございました。